

学報

2017. January

vol. 59

特集

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.2

第2回奈良メディカルラリー
を開催しました

研究紹介



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.2	3
第2回奈良メディカルラリーを開催しました	5
研究紹介	6
就任のご挨拶	11
産学官連携だより	11
学報編集委員会からのお知らせ	11
MBT研究所だより	12
図書館だより	13
E棟部門紹介	14
事務部門紹介（教育支援課／医療サービス課医療相談室）	15
クラブ紹介	16
留学生紹介	16

Campus News

平成28年度白檀生祭のご報告	17
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI（研究成果の社会還元・普及事業）を実施しました	18
高大連携教育を推進しています	18
医学部医学科で「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました	19
世界初、においを感じる度合いを調節する神経メカニズムを解明！	20
総合防災訓練を実施しました	20
玉井進記念四肢外傷センター設立記念展示を行っています	21
防災講演会を開催しました	21
組換えDNA 実験安全委員会研修会の開催	21

Winner Report

平成28年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました	22
平成28年度（第1・2回）若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定	22
日本感染症学会地方会で最優秀賞を受賞しました	22
WFH 2016 WORLD CONGRESS でArosenius fund 賞を受賞しました	23
第23回日本時間生物学会学術大会で優秀ポスター賞を受賞しました	23
第43回日本神経内分泌学会学術集会で 「若手研究 帝人ファーマ助成金」を受領しました	23
第37回奈良県公衆衛生学会で優秀演題賞を受賞しました	23
日本超音波医学会第43回関西地方学術集会で新人賞・最優秀賞を受賞しました	24
第102 回北米放射線学会(RSNA 2016)の Education Exhibit でCertificate of Merit を受賞しました	24
Asian Pacific Digestive Week (APDW) 2016において Poster of Distinguished Award 5位に入選しました	24
Asian Pacific Digestive Week (APDW) 2016 において Poster of Distinguished Award を受賞しました	24
The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD) 2016においてPresidential Poster of Distinctionを受賞しました	25
第214回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞(最優秀演題賞)を受賞しました	25
平成28年度秋の叙勲受章	25
平成28年度医学教育等関係業務功労者表彰	25
平成28年度 外部資金獲得状況	26

Information

セミナー・講習会等	30
「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	31
メディア掲載情報／編集後記	32

理事長・学長からのメッセージ vol.2

理事長・学長 細井 裕司

明けましておめでとうございます。

昨年は一年間、大学運営、病院経営に多大なるご協力とご尽力を賜り、ありがとうございました。改めまして、心より感謝申し上げます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

年頭にあたり、今年の大きな目標のひとつを奈良医大の【内】の改善・充実としたいと思っております。本学を支えていただいている教職員や学業に励む学生諸君の個々人の頑張りにより、ため、労働環境や職場・修学環境を改善する【内】の充実に取り組みたいと思います。

私は、学長就任以来、存在感を全国に示せるような大学にしたいと考へ行動してきました。これはいわば【外】に向かっの行動ですが、【内】の充実と【外】の向上は互いに密接な関係があります。全国に大学は約780校ありますが、【外】からの評価が低いのに【内】が充実している大学はありません。逆に、【内】の充実がなければ、奈良医大が更に発展を遂げ、【外】から高い評価を得ることもできません。

【内】の改善をさらに進めるために考慮すべき問題として、第1に財源の問題、第2に制度の問題があります。私は、これらの問題に不退転の決意で臨むつもりです。そのために、まず以下の事柄に具体的に取り組んでいきます。

1. 労働環境の改善

平成25年度から27年度、過去3回に渡って実施されたワークライフバランスのアンケートの結果を分析し、外部から専門家も交えて財政上、制度上の問題を含め、対応策を広く協議し、少しずつでも皆さんの目に見える形で、改善を図っていきたく思っています。

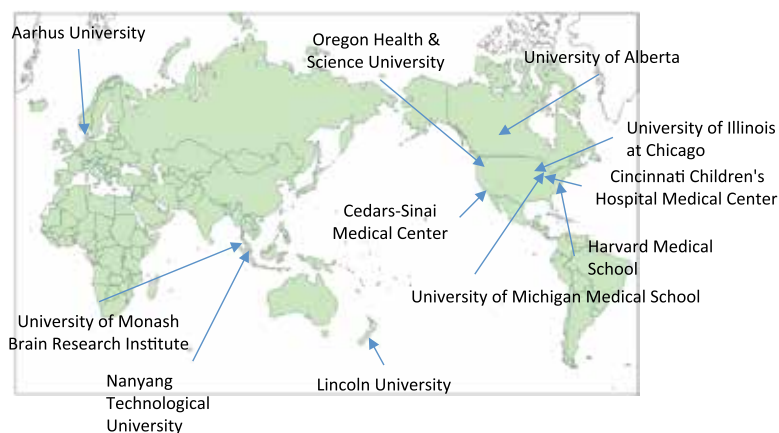


図1 奈良医大の学生が研修する大学・機関

2. 職場・修学環境の充実

1) 「未来への飛躍」基金の活用

飛躍基金の創設は、私が学長に就任して以来、特に力を入れてきた事業です。一昨年から徐々に稼働し始め、着実に基金が積み上がって参りました。また、昨年末には、学生諸君への学業支援に、この資金が初めて活用されました。本制度の確立にご尽力頂きました多くの方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。さて、図1に今春から奈良医大の学生が研修する大学・機関を示します。世界的視野をもって活動できる医師を育てられる素地を、奈良医大に作っておきたいと考えました。本年からは、大学施設内の設備の充実や環境の改善に、この資金を積極的に活用していく予定にしております。今後、皆様のご意見をお聞かせ頂き、速やかに反映していきたく考えています。

2) 新・現キャンパス整備計画、新駅の設定

すでにE棟が昨秋に全面供用されましたが、今後10年以上続くキャンパス整備計画に、県は数百億円の投資を予定しています。このことは、新駅の整備と相まって、確実に奈良医大の職場・修学環境が改善することを意味します。現在の古い臨床研究棟や講堂、講義室などが生まれ変わり、全国でもトップクラスの環境になると期待し、今後さらに尽力していくつもりです。図2に、奈良医大を核としたまちづくり(新キャンパスと現キャンパスの整備計画)の概要を示します。

3. 財政上の課題

奈良医大の財源には、県からの交付金、国・企業等からの外部資金と、病院収入を主とした自己資金があります。自己資金については、古家病院長はじめ病院スタッフ全員の協力により、全国でも上位の収入をあげて頂いております。

1) 県からの交付金

県からの交付金獲得に最も重要なことは、お互いに意思疎通をはかり、県に大学の実情を理解して頂くことが肝要です。これからがキャンパス整備の正念場です。これまでに知事と私が築いてきました信頼関係をもとに、月2回の定例会議が行われてきましたが、今後さらに良好な関係を深めていきたいと考えています。

2) 国・企業等からの外部資金とMBT (Medicine-Based Town: 医学を基礎とするまちづくり)

「なぜ 単科の医科大学である奈良医大が、少子高齢社会のまちづくり、産業創生、地方創生を行うのか。奈良医大は、他学と同様に医学の教育、研究、診療だけを行ってれば良いのではないか。」との疑問の声があることも、私は十分承知しております。

しかし、今後、著しく人口減少が想定される奈良県中南和地域にある本学の、10年後15年後の存在価値を考えたとき、どうしても本学ならではの独創性が不可欠だと思っております。MBTは、一地方である奈良県において、本学の独創性を活かした、日

本の発展にも寄与できる国家レベルの事業です。外部資金の獲得が多い大学は、全国的な評価の高い大学であり、その評価には、日本の国にとって、重要な役割を果たしているかどうか大きなウエイトを占めています。こういった意味からも、MBTを通して、奈良医大が日本の発展においても貢献し、本学の価値をより一層、高めていきたいと考えています。

すでに文科省の大型支援プロジェクトである「けいはんな地域リサーチコンプレックス」事業(2015～2019年度)において奈良医大が中核機関マネージメントチームのオーガナイザーという責任ある立場になりましたが、これもMBTを通じて、奈良医大の積極的な活動が認められた結果だと思っています。また、MBTは、内閣官房のモデルケースになり、国の6省庁、NHKを含む35団体に認められた事業になって参りました。経産省、総務省、文科省、農水省からも研究費・補助金等を獲得しております。また、各教室と企業との共同研究も始まりつつあります。大きな成果は数年先になるかもしれませんが、近い将来、着実に実を結ぶ事業であると私は確信しております。とはいえ、私自身もMBTが唯一の選択肢だと思っている訳ではありません。MBTのような、奈良医大の存在価値を高める独創的な良策があれば、是非ともご教示頂きたい、と願っております。

本年も役員一同、奈良医大の【外】に向けての向上とともに、【内】の改善・充実にも、精一杯尽力して参りますので、皆様のご協力とご理解の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

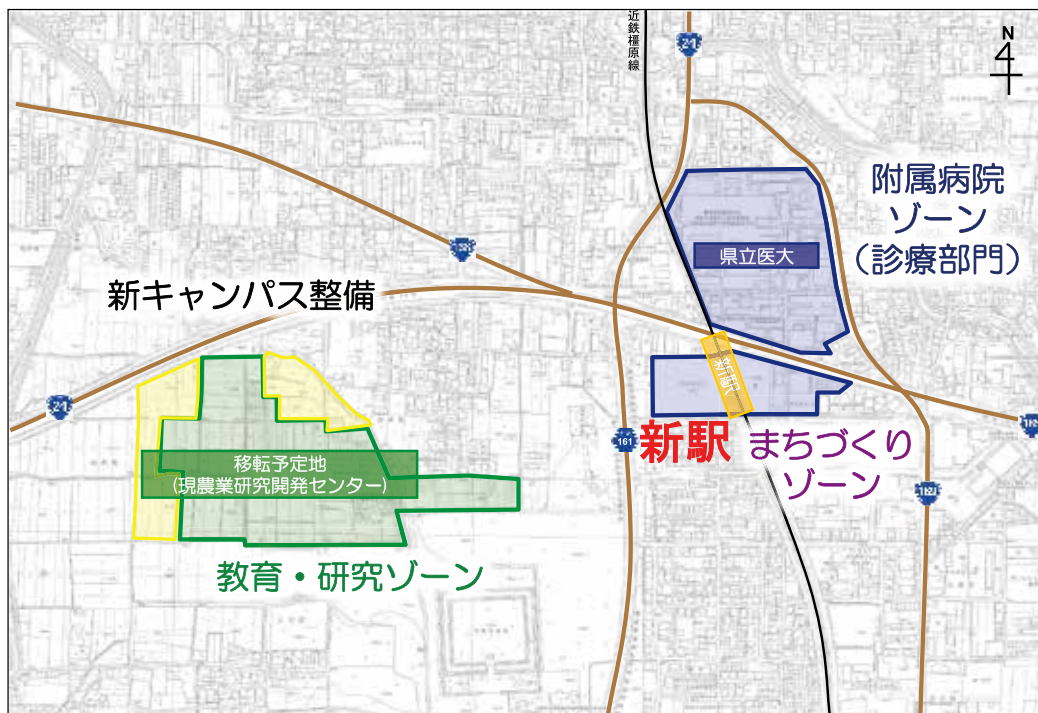


図2 奈良医大を核としたまちづくり —新キャンパスと現キャンパス整備計画

第2回奈良メディカルラリーを開催しました

平成28年12月3日(土)に、奈良県立医科大学内で奈良メディカルラリーを開催しました。

メディカルラリーとは、医療チームが特殊メイクを施した模擬患者を診察して、限られた時間内にどれくらい的確に診断と治療を実施することができるかを競う技能コンテストのことです。具体的には、救命救急を専門とする医師、看護師、救急救命士がチームを組み、出動指令に従って指定された場所へ出動します。そして、そこにいる模擬患者さんに対して診察を行い、止血処置、人工呼吸、薬剤投与などの必要な処置を行います。その行為を横にいるジャッジが評価し、採点します。このような実際の現場を再現したものをシナリオステーションと呼び、各チームはそのシナリオステーションを順番に回り、評価、採点が行われ、その総合得点で順位を競います。

今回で2回目となる奈良メディカルラリーには、県内からは9チーム、県外からは5チームの計6府県から14チームが参加しました。傷病者役等は数十名のボランティア・学生が演じました。

競技参加者は、事前にシナリオの内容は知らされないまま火災や事故などを想定した九つのシナリオステーションを巡り、さまざまな状況下での救急医療を施しました。

また、本年3月に奈良県はドクターヘリを導入し、奈良医大が事業主体となり、診療施設外での医療活動が本格的に始まります。メディカルラリーで行った競技内容が、実際の救急現場でも行う可能性が高くなります。

出場チーム名	都道府県
TRINITY	福岡県
奈良ばんびーず3	奈良県
天理ラリー相談所	奈良県
“最強アパッチ医療軍 ～安心して下さい。助けますよ!～”	奈良県
Moccos SAKY	熊本県
レッドウィング	鹿児島県
Emergency Lovers	奈良県
GATE☆STAR	奈良県
team 播州姫路	兵庫県
ぺるずいもーね	奈良県
紅一点	奈良県
奈良タスケルンジャー	奈良県
大阪EMS研究会	大阪府
卑弥呼ng	奈良県



開会挨拶をする奈良メディカルラリー実行委員会奥地会長（奈良医大救急科教授）



交通事故を想定したシナリオステーション



心臓マッサージ・気管挿管を行う場面



優勝した「TRINITY」



奈良医大チーム「奈良タスケルンジャー」

臨床病理を基盤とした癌の 分子生物学的研究



病理病態学 教授
小西 登

当教室は平成15年に第二病理学講座から名称変更して今日に至っており、もともと本学の病理学教室が実験病理学として発展してきたことから、ウイルス発癌や化学発癌の研究の延長線上にあります。疾患の解明が遺伝子への解析へと移っていく中で、教室の方向性も分子生物学的研究へと推移してきましたが、その基盤はあくまで臨床病理学的データをもとにした研究姿勢にあります。現在は泌尿器腫瘍を中心に研究を行っていますが、これまでに学内外の臨床各科との共同研究として、口腔癌、甲状腺癌、乳癌、肺癌、脳腫瘍、膵癌、骨軟部腫瘍など多岐にわたります。以下、最近の研究成果を記載します。

1) 前立腺癌について

欧米において男性の腫瘍死では肺癌に次いで高頻度に発生する悪性腫瘍であり、本邦にあっても急激に増加しており、ホルモン非依存性前立腺癌に対する抵抗性獲得メカニズムの解明が急務とされています。近年、癌が少数の幹細胞様癌細胞により形成・維持され、治療抵抗性獲得に重要な役割を担うことが明らかにされており、前立腺癌の癌幹細胞においては、ホルモン抵抗性癌の促進分子であるCD138 (syndecan-1) が高発現していることを初めて見出しました。

加えて、syndecan-1を活性化する唯一の酵素、heparanaseを臨床病理学的あるいは細胞生物学的に解析し、basal cellsからintermediate cellsを分化・誘導する上で重要な役割を担うこと、その機能を遮断することで癌発生源であるintermediate cellsを可逆的にbasal cellsへ誘導することができることが判明しました。さらにheparanaseノックダウンを行うと、IL-6発現が低下し、IL-6下流のSTAT3が脱リン酸化されること、そしてautophagyが誘導されることを見

出しました。IL-6やSTAT3の抑制によってautophagyが誘導されることから、heparanaseはintermediate cellsにおけるIL-6シグナルを促進することで発癌抑制機構であるautophagyを阻害することもわかりました。

2) 膀胱癌(尿路上皮癌)について

ヒト膀胱尿路上皮癌細胞を用いて、CD138やDNA修復酵素であるhALKBHファミリー分子の機能を、*in vitro*、*in vivo*の実験系を用いて解析してきました。これらの分子群が主として癌細胞生存シグナルの促進や血管新生の増強を介して膀胱癌の進展に深く関与することを明らかにし、膀胱癌における病理組織診断、細胞診断の精度向上と新規分子標的治療の確立に取り組んでいます。その一環として、尿路上皮癌の生存に欠かせない分子やそのシグナル伝達を検討した結果、活性酸素種(ROS)ならびにユビキチン関連蛋白が癌細胞において安定・持続的に発現することを見出し、これを応用し、細胞内活性酸素種の測定や免疫細胞染色によって尿検体を用いた精度の高い癌診断を可能にした新規腎盂、尿管、膀胱癌診断システムを開発しています。

3) micro RNA

microRNA(miRNA)は19-25塩基よりなるnon-coding short RNAで、その発現異常が癌遺伝子や癌抑制遺伝子の発現ネットワークを攪乱し、発癌や進展、転移に深く関与することが明らかとなっていますが、前立腺癌ではsyndecan-1と連動してmiR-126,149がp21の発現およびsenescenceを介して細胞増殖に関わること、miR-331-3pが上皮間葉移行を介して細胞の浸潤に関わることを見出しました。さらに、miRNAの成熟に関わる分子(Dicer)の発現を制御することで複数のmiRNAの発現を調節していることもわかり、尿路上皮癌ではmiR-145がsyndecan-1の発現抑制を介して細胞増殖を抑制する一方で、扁平上皮系、腺系および神経内分泌マーカーの発現上昇及び細胞形態学的に細胞突起の伸長が観察され、分化を促進することが示されました。

これらの知見が治療標的や診断マーカーに応用可能となることを目指した研究を行っています。

神経疾患の研究



神経内科学 教授
上野 聡

神経内科の研究は脳の高次機能や運動機能、自律神経、感覚神経および筋肉までの広い領域を対象とします。その主要な病因にかぎっても変性、感染、免疫異常、腫瘍、中毒によるもの、そして血管障害などがあります。当教室では以下の課題について研究に取り組み、病気の機序解明、最適な治療をめざしています。

1) オートファジー異常による筋疾患に関する研究

(杉江和馬准教授)

2016年ノーベル賞受賞で脚光を浴びたオートファジー（自己貪食）は全ての細胞が持つ生体維持のための蛋白分解機構です。筋細胞で自己貪食空胞が蓄積する病態不明の筋疾患が知られていましたが、私達はオートファジー異常に着目して自己貪食空胞性ミオパチーと定義し、疾患概念確立と病態解明を長年にわたり研究してきました。なかでも代表的な疾患であるDanon病では動物モデルも用いて特異な自己貪食空胞(AVSF)とオートファジー関連蛋白の病理学的特徴、X連鎖性優性遺伝の遺伝学的特性、海外例を含めた臨床症候を世界に先駆けて報告してきました。私達は厚労省研究班を組織して世界初の診断基準を作成し、2015年には「自己貪食空胞性ミオパチー」が厚労省指定難病の一つに認定され、これまでの研究努力が結実しました。引き続きオートファジー分子機構の解明から治療法開発を目指しています。

2) パーキンソン病(PD)および

中枢神経感染症についての研究(形岡博史講師)

PD患者は増加の一途をたどっており、その運動症状のみならず睡眠異常や幻覚などの非運動症状は患者QOLに多大な影

響を及ぼします。これまでに薬剤との関連性や脳局在、幻覚の危険因子等を報告しました。運動症状についても前頭葉機能低下がすくみ足の原因となりえることを示し、姿勢異常の病態・治療標的筋の同定にも取り組んでいます。これらのPDの重症化の機序を解明するため、特にサーカディアンリズムとの関連について疫学予防医学講座とのコホート研究が進行中です。中枢神経感染症、特に脳炎に関しては抗NMDA受容体脳炎の臨床像や重症脳炎におけるnormothermic therapy、辺縁系脳炎の予後決定因子など報告しており、有効な治療や病因の発見に向け臨床学的に検討を続けています。

3) 脳梗塞の臨床的研究(泉哲石講師)

脳梗塞の診療は、t-PA治療を中心とした超急性期治療をはじめ、様々な合併症を有する症例、若年発症の症例など、難易度の高い疾患を積極的に受け入れています。脳梗塞の原因を明らかにするため、超音波検査(頸部血管エコー、経頭蓋ドップラー、経食道心エコー、下肢静脈エコーなど)は主に医師が行い、画像検査、電気生理学的検査、生化学的検査などを積極的に行っています。急性期治療後は地域連携室の協力を得て、滞りなく最善の治療が受けられるよう努めています。当院では各々の診療科で脳梗塞治療を行っており、各科の特性を分析してより最善の治療が行えるよう検討しています。血液生化学的情報から、極長鎖脂肪酸と脳梗塞の関連、脳梗塞の免疫指標の動態、悪性疾患に關与する脳梗塞の特徴について臨床研究を進めています。

4) 中枢神経系の免疫性疾患(桐山敬生助教)

中枢神経系の免疫疾患は多発性硬化症や視神経脊髄炎、抗NMDA受容体抗体脳炎など多岐にわたり、近年、これらの患者から抗アクアポリン4抗体、抗NMDAR抗体などの新たな抗体が次々と見つかり、自己免疫性脳炎、中枢神経脱髄性疾患が臨床的分類から、免疫血清学的分類へと移りつつあります。当科では腫瘍様の炎症性脱髄性病変の起こるtumefactive demyelinating lesionの臨床的特徴や、血清学的特徴、脳MRI画像を明らかにしてきました。さらに巨大な脳病変を呈した症例で抗アクアポリン4抗体陽性例、陰性例の比較や、抗MOG抗体陽性例の特徴等を報告し、血清学的な病態解明に関する研究も進めています。またNMOに対するリツキサンによる再発予防効果に対する医師主導治験にも参加し、進歩の著しい免疫疾患の臨床的研究も行っています。超高齢化、予防と医療資源活用の観点からも神経疾患は重大な領域であり、その克服を目指した研究が求められます。

認知症予防教室の成果



老年看護学 助教 片畑 由佳理
老年看護学 教授 水主 千鶴子
老年看護学 准教授 澤見 一枝

I. はじめに

厚生労働省による認知症有病率の推定値は、65歳以上人口の15%であり、認知症の有病者数は約462万人と推計されています。認知症の比率は、アルツハイマー型認知症(AD)が最も多く、全体の60%以上を占めます。ADは年々増加の一途を辿っており、65歳以上の高齢者は、加齢に伴い5歳毎に発症率が倍になっております。このため対応策の構築が喫緊の課題ですが、治療においては、アミロイドワクチンが開発されたものの、脳内のアミロイドβ(老人斑)だけは除去しますが、認知機能は改善できなかったため、まだまだ研究途上にあります。従って現状においては、発症前の予防的対策が最も重要と言えます。

そこで、ADを発症前に把握できる検査指標を確立し、進行抑制に取り組むプロジェクト: Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative (ADNI) が世界的に発足しました。日本においても、J-ADNIが2007年にスタートしましたが、地域的な取り組みは、まだまだ模索段階です。

この背景から、橿原市の全市民を対象に、市内の全公民館11ヶ所において、脳のわかがえり教室(ADの予防的介入)を行いました。この取り組みは、橿原市社会福祉協議会の認知症予防事業との共同事業であり、軽度認知障害(Mild Cognitive Impairment: MCI)のスクリーニングからフォローアップまでを継続的に実施する取り組みです。また、橿原万葉ホールで毎月1回の健康教室を開催しております。さらに、岐阜県においても岐阜市・本巣市・瑞穂市において認知症予防教室を開催しております。

ADの予防については、継続的な有酸素運動によるBDNF(brain derived neurotrophic factor: 神経細胞の新生・成長・修復を促進する脳の栄養因子)の増加と、海馬(記憶に関

わる脳領域)の容積の増加が報告されています。また、認知トレーニングにおいては、Nバック課題(N個前の問題を答える記憶保持課題)の有効性が検証されており、メタ分析(研究結果の統計的統合)の結果、前頭葉と頭頂皮質領域の活性化が認められております。さらに、二重課題(2つのことを同時に行う課題)が有効であり、これによる前頭前皮質の活性化が検証されています。この二重課題は、単一課題(運動のみ、学習のみといった1つのことだけを行う課題)に比較して、有意に脳が活性化しました。

以上の先行研究から、有酸素運動とNバック課題、二重課題を組み合わせた介入が、脳の活性化につながると考えました。また、認知機能維持のための非薬物療法は、大半が音楽療法や園芸療法などの快適な感情を促進するための方法であり、快適な感情は、脳内報酬系領域(A10神経系)を活性化して継続の動機づけになります。そこで、快適で肯定的な感情を向上させるための介入が必要であると考え、本介入にはレクリエーションを取り入れました。この研究の介入方法は、レクリエーションをベースとして運動・Nバック課題、二重課題を組み合わせたものです。

II. 評価方法

スクリーニングスケールは、Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment (MoCA-J) を用いました。これは30点満点で、得点が高いほど認知機能が高く、25点以下であると軽度認知障害が疑われます。使用にあたり原版開発者のDr. Ziad Nasreddine、日本語版翻訳者の鈴木宏幸Drの使用許諾を得て実施しております。

また、認知機能に影響する要因を明らかにするため、身体機能やストレスを測定しました。

III. 結果と考察

二重課題と単一課題の前後比較においては、二重課題のほうが多くの認知項目が有意に向上しました。認知機能と身体機能との関係性では、認知機能と血管年齢との相関、ストレス対処能力(Sense of coherence: SOC)、精神的健康度(general health questionnaire: GHQ)との相関が明らかになりました。また、レクリエーション課題の前後比較において、ストレス度(唾液アミラーゼ活性値)が有意に低下しました。

認知症を発症すると、ご本人やご家族の生活の質を下げるため、より効果の高い予防方法を普及することが求められています。また、認知機能に影響している要因を知り、生活習慣を見直すことは、予防において最も重要であると考えます。認知機能が血管年齢やストレスと相関していたので、動脈硬化の予防やストレスの解消を推奨いたします。

Psychotherapeutic Nursing / 心理療法的な看護



看護学科 精神看護学領域
軸丸 清子

私は1975年に滋賀県立短期大学（滋賀県立大学前身）看護学科を卒業後、身体科臨床看護師として15年程経験を積んだ頃、看護師に人の話を聴く力があれば、患者さんの心の痛みをもっと和らげることができるのではないかと考えるようになりました。そこで1990年から2年間、龍谷大学のカウンセリング研修課程で臨床心理学やカウンセリング技術について学び、修了を機に1993年から精神看護師に転換しました。最初は、精神科デイケアで精神障害を持つ人のリハビリサポートの一環として、受け持ち患者さんのカウンセリングを行っていました。それを見ていた医師の紹介で、1992年から7年間一般病院でも癌や難病で苦しむ患者さんのカウンセリングを行い、臨床心理学教授のスーパービジョンを受け看護カウンセリングの技能を磨きました。一方ではその教授に研究指導も受け、その成果を学会や学会誌に公表して、看護カウンセリングおよび看護カウンセラーという領域・立場の確立に努めました。

看護カウンセリングは、心理療法の知識・技術、看護師としての知識・経験を生かしながら患者さんの内的世界を深く理解し、患者さんが苦しみの根源となっている自分自身の欠乏欲求に気づき、それを自分自身で満たしていける（セルフケアできる）ようにサポートしていきます。サポートにおいては患者さん自身が自分の欠乏欲求をセルフケアできるよう患者さんの内的・外的環境にも関心を向け、必要であれば患者さんへの直接ケア、人間関係・社会資源・物理的環境等の調整も行います。

研究では、そうした看護カウンセリングの事例を1つひとつ丁寧に分析し、看護カウンセラーがかかわることで患者さんが主体性を回復し、身体的・心理的に健康を回復、発達・成長していくプロセスを人間性心理学の観点から明らかにし、「人間性精神看護の理論的システム化に関する研究」を修士論文

と学会誌に公表しました。一方では、そうした心理療法の素養を身につけた看護師を養成するための教育プログラムの開発と評価に関する研究に取り組み、2010年には、心理療法的な看護の体系化を図り、「サイコピューティック・ナーシングの構想—実践と教育に関する研究— (the new concept of psychotherapeutic nursing—its clinical and educational applications)」を博士論文と学会誌に公表しました。

本学就任以降は、その考え方に基づく教育・実践・研究に取り組み、本学と明日香村との地域連携事業に参加して「サクセスフルエイジングのサポートに関する研究」というテーマで、2012年からは以下のような研究を行ってきました。

1) 介護予防事業の一環として認知機能の低下防止、ひいてはサクセスフルエイジングを目的に、認知機能低下傾向にある地域在住高齢者に懐メロを用いた回想法（以降「懐メロ回想法」という）を実施し、その効果を評価しました。対象者は、1グループ12人前後で、半年を1クールとして月に1回実施し、各年毎および3年間の評価を行いました。その結果、各年毎でも3年間でも認知機能が改善し、幸福感が向上することが明らかになりました。認知機能は、中でも特に短期記憶が改善することが新しい知見として得られました。

また、3年間のデータから認知機能レベル別にその効果を評価し、軽度認知障害にある人に、顕著に効果が表れることが明らかになりました。

2) 懐メロ回想法を質的にも研究してきました。(1) 懐メロ回想法の体験とその意味・意義を探求する研究では、参加者は語りを通じて体験を次世代に語り継ぐという社会的役割を見出し、自己実現に向かって生きはじめる。また語りを肯定的に聴いてもらうことで、これまでの苦しみや悲しみを含む自己の人生を受け入れ、自我の統合が図られていることが明らかになりました。(2) 懐メロ回想法へのモチベーションとその要因を探求する研究では、参加者は普段から機会があれば何かを始めたいという潜在的な願望を持っており、顔なじみの保健師や近所の人など信頼のおける人からの情報提供や勧誘がきっかけとなってモチベーションが高まり、参加を決意する。そのモチベーションは懐メロ回想法での快の体験を積み重ねることで一層高まり、達成意欲となって、参加が維持・継続されていることが明らかになりました。

これらの研究成果を踏まえて、2015年からはより多くの住民に懐メロ回想法を提供するために、施設や健康福祉センターの援助職の人たちに懐メロ回想法実践者養成研修を村と協同で行いました。2年間で20人の実践者を養成し、2016年3月から1年間の3大字（地域の単位：自治会）での試行を経て、2017年にはさらに新たな3大字に拡大し、研修を受けた人々による懐メロ回想法の実施とそのサポートを計画しています。

研究紹介

世界のスタンダードになった 紫外線DNA損傷検出系



RI実験施設 研究教授
森 俊雄

遺伝情報を担う DNA は日常的に損傷を受けている。ヒトは DNA 損傷応答で対応するが、中でも DNA 修復の果たす役割は大きい。私達は DNA 修復機構について、二重鎖 DNA 構造を大きく歪める損傷全般に働くヌクレオチド除去修復 (NER) を中心に研究している。NER の重要性は、NER 欠損遺伝病である色素性乾皮症 (XP) の太陽露光部における高頻度皮膚がんや進行性の神経障害の発症で明らかである。私達は疾病の原因と予想される DNA 損傷に特異結合するモノクローナル抗体を世界に先駆けて作製し、それまで困難であった DNA 損傷の高感度検出を可能とする新検出系を開発してきた。この独創的技術を武器に DNA 修復機構や XP 疾病の発症機序の解明を目指している。

太陽光を浴びすぎると、日焼け、免疫抑制、皮膚がんなどが生じる。これらの障害の主因は紫外線が誘発する DNA 損傷であり、具体的には連続するピリミジン間に形成される 3 種類のピリミジン 2 量体 [シクロブタン型 2 量体 (CPD)、6-4 型光産物 (6-4PP)、Dewar 型光産物 (DewarPP)] である。私達はハイブリドーマ法により、各損傷に特異的な 3 種類のモノクローナル抗体を作製した (2 種類は世界初)。皮膚科大学院生らとの研究により、1) 酵素標識免疫法を用いた高感度紫外線 DNA 損傷検出系を開発した。この技術により、奈良医大建屋屋上で太陽光を短時間照射した DNA において、CPD、6-4PP および DewarPP を検出できた。また、低線量紫外線を照射した正常ヒト細胞において、CPD や 6-4PP の誘発およびその修復を測定できた。同時に、XP 細胞の修復欠損も確認できた。2) 抗体特有の利点である蛍光免疫染色法に応用し、細胞内の DNA 損傷を可視化する方法を開発した。この方法により、

UVB 照射されたヒト表皮切片において CPD や 6-4PP の染色が可能となり、基底細胞における損傷形成をメラニンが防御することを明示できた。また、正常ヒト細胞において、紫外線照射直後に細胞核全体に DNA 損傷が誘発され、修復に伴い損傷が次第に消失する様子を観察できた。さらに、ラット初代培養神経細胞やアストロサイトは初代培養線維芽細胞に比べて NER 活性が低下していることが明らかとなった。3) 損傷部位への修復蛋白の集積解析法を開発した。遮蔽膜を利用した「小孔紫外線照射法」により、ヒト細胞核の一部に DNA 損傷を誘発すると、核内全域に分布する修復蛋白が損傷部位へ集積するのを観察できた。一方、XP 細胞では、様々な集積異常が観察された。このように応用性も備えた紫外線損傷検出系は今や世界のスタンダードに発展し、多くの国内・国際共同研究を生みだしている。

XP の中で最も重篤な症状を呈し日本人患者の多数を占める A 群 (XP-A) は進行性の神経障害を発症するが、その機序は不明である。仮説として、内因性の NER 型 DNA 損傷が神経細胞に蓄積する結果、重要遺伝子の転写を阻害し死に至らせると提唱されている。2000 年に、候補損傷として、ヒドロキシルラジカルが誘発する DNA 損傷サイクロプリン (Cyclo-dA 等) が報告された。この酸化的損傷は DNA 構造を大きく歪ませるため、NER で修復される。私達は 8 年に亘る努力の結果、Cyclo-dA に対するモノクローナル抗体の作製に世界で初めて成功した。酵素標識免疫法に応用した結果、損傷量と抗体結合量が直線関係となり、 10^6 塩基に 1 個の損傷を検出できた。現在、XP-A および野生型マウス由来臓器 (脳、肝臓、腎臓、精巣) 中の Cyclo-dA の定量を進めている。

本学 26 年間の研究成果は 10 名の博士学位論文を含む 115 報の論文に発表され、IF 合計は 528.43 (1 報あたり 4.595) となり、紫外線を中心とする DNA 修復機構の研究に貢献できたと考えている。

これまで研究を支えていただいた多くの先生方に心から感謝申し上げる次第である。

就任のご挨拶



消化器・総合外科学
教授 庄 雅之

此の度、平成28年11月1日付で消化器・総合外科学教室教授を拝命致しました。伝統ある教室を担当させて頂く重責を改めて痛感しております。当科は、肝胆膵、上部消化管、下部消化管等の消化器外科の他、小児外科、乳腺外科を含む総合外科学教室であり、非常に幅広い領域、疾患を担当させて頂いております。学内および県内におきまして、自らの果たすべき責務をしっかりと自覚し、奈良県におけます外科医療の向上、関係疾患の治療成績向上に向けて、関連病院を含めて教室一丸となって取り組んで参る所存でございます。「Patient First」を何より大切に、あくまで患者さん中心の臨床、研究であることを常に忘れずに、地域医療の高度な充実とともに、Originalityの高い臨床および研究の成果を、奈良から世界へ発信していけるように不断の努力を続けて参ります。また次世代の医療を担う学生教育にも、真摯に取り組んで参ります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

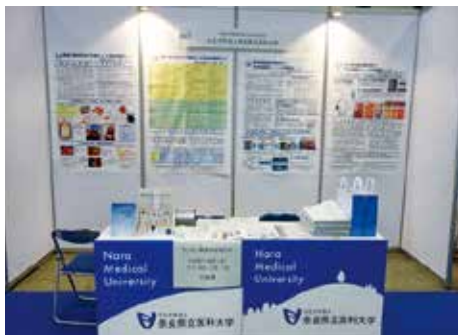
産学官連携だより

industry-academia-government collaboration

BioJapan 2016に出展しました

平成28年10月12日(水)・10月13日(木)・10月14日(金)の3日間、パシフィコ横浜において、企業や大学等から創出された魅力的な研究成果の情報発信及び実用化に向けた産学連携を図ることを目的とした「BioJapan2016」(主催: BioJapan 組織委員会他)が開催されました。

本学が参画している医学系大学産学連携ネットワーク協議会 (medU-net) を通じての、共同での出展であり、本学は右記のシーズを出展しました。当日は酒井教授、赤羽准教授がブースでポスターを用いて解説を行った他、酒井教授が多数の聴講者に対しショートプレゼンを行い、企業等と名刺交換等、活発な産学官交流を行いました。今後、これらの企業等とマッチングが生まれることを期待しています。



展示ブース

「備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤」

化学 教授 酒井 宏水

「骨形成促進効果を持つ骨形成細胞シートの利用法」

公衆衛生学 准教授 赤羽 学



ショートプレゼンの様子

学報編集委員会 からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関する出来事、お知らせ等を掲載していますが、これらに関連する記事を皆様からも広く募集しています。

ご興味のある方は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は毎年1、4、7、10月に発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しています。



1. 医学を基礎とするまちづくり (MBT) コロキウム

平成28年11月14日(月)早稲田大学大隈講堂及びリーガロイヤルホテル東京において、「医学を基礎とするまちづくり (MBT) コロキウム」を本学主催で開催しました。コロキウムは2部構成で、第1部は609人、210企業が参加し、「MBT (医学を基礎とするまちづくり) の最先端」のテーマの下に、荒井知事、米国ロチェスター市経済開発・地域づくり局長Patrick Seeb氏による講演、パネルディスカッション等が行われました。第2部は307人、75企業が参加し、「新産業創生のための企業と医師の交流相談会」が行われました。本学の教授陣76人が参加し、活発な交流が図られたところです。



[MBT コロキウム第1部]



[MBT コロキウム第2部]

2. 講演会「超高齢社会～未知の社会への挑戦～」及び官民交流会

平成28年8月2日(火)に本学共催で、東京の「ホテルポール麹町」において、講演会「超高齢社会～未知の社会への挑戦～」及び官民交流会が開催されました。本講演会では、細井学長を始めとするタイトルに造詣の深い大学の教授や局長級の官僚の講演が行われました。また官民交流会では、多数の幹部官僚が参加し、MBT コンソーシアム会員等との交流が行われました。

3. MBT (医学を基礎とするまちづくり) による新産業創生・地域創生シンポジウム

平成28年12月8日(木)に本学及びMBT コンソーシアム主催、関西健康・医療創生会議第3分科会共催で、ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンターにおいて、「MBT (医学を基礎とするまちづくり) による新産業創生・地域創生シンポジウム」を開催しました。大阪市立大学、近畿大学、関西医科大学などが参加し、少子高齢社会におけるまちづくりの在り方について、関西の各大学等の取り組みが紹介されました。

4. けいはんな学研都市「リサーチコンプレックス推進プログラム」本採択

文部科学省と科学技術振興機構(JST)による補助事業「リサーチコンプレックス推進プログラム(以下、RC)」に関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市、以下、けいはんな)が本採択されました。細井学長がオーガナイザーに就任し、最長2019年まで年間3億円程度の支援を受けられます。けいはんなのRCでは、あらゆる基礎技術に繋がる脳科学をベースに、事業の評価が困難な「ココロの豊かさ」に挑戦することとしております。本RCには現時点で32の研究機関・企業が参画しており、MBTとの連携が図られております。

5. 関西公立私立医科大学・医学部連合とWHO健康開発総合研究センターとの保健医療政策共同研究

平成28年9月5日(月)、関西公立私立医科大学・医学部連合(京都府立医科大学、関西医科大学、奈良県立医科大学、大阪市立大学、和歌山県立医科大学、大阪医科大学、兵庫医科大学、近畿大学)とWHO健康開発総合研究センターは、保健医療政策研究を共同で取り進むために、ワーキンググループを設置しました。このワーキンググループは4つに分かれており、奈良医大は当面「高齢社会における高性能住居、健康まちづくり」を担当することとなっております。

6. 競争的資金の獲得

農林水産政策科学研究委託事業に『薬用作物の産地形成と園芸療法を通じた医学的エビデンスにもとづく「農村医療観光」の開発による6次産業の創出に関する研究』の研究課題が採択されました。

科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)に「まちなみ景観とまちなか医療の相互補完による持続可能な重伝建保存」の研究課題が採択されました。

検索マスターへの道 (第9回) 診療ガイドラインの探し方

最近、カウンターでよく「〇〇(疾患名)のガイドラインありますか?」と尋ねられます。図書館では診療ガイドラインコーナーというものはありません。図書館では診療ガイドラインコーナーというものは設けておらず、各疾患に該当する分類の棚にガイドラインを並べています(分類については学報 No.44 の「図書館だより」を参照)。また、ガイドラインには冊子体で出版されているもの、ネット上で公開されているものなど発行形態もさまざまです。今回はそんな診療ガイドラインの探し方をご紹介します。

診療ガイドラインとは、「診療上の重要度の高い医療行為について、エビデンスのシステマティックレビューとその相対評価、益と害のバランスなどを考量して、患者と医療者の意思決定を支援するために最適と考えられる推奨を提示する文書」です(『Minds 診療ガイドライン作成マニュアル Ver.2.0』より)。この定義は Minds (マインズ) のホームページで公開されています。医療情報サービス Minds は日本医療機能評価機構が運営する事業で、厚生労働省委託事業：EBM(根拠に基づく医療)普及推進事業として継続しています。Minds のサイトでは、診療ガイドライン検索のほか、コクランレビューのアブストラクトを翻訳したものや、ガイドラインの解説(一般向け)を提供しています。ガイドラインはカテゴリー別、または五十音順で検索することができます。

医療情報サービス Minds ホームページ
<http://minds.jcqhc.or.jp/n/top.php>



ガイドラインを検索すると、学会などのホームページで公開されているものはそのサイトへのリンクがあります。ネット上で公開されていないものは冊子体の出版情報であるタイトルや出版社が記載されているので、その情報を元に図書館の所蔵を確認します。図書館にあればすぐご利用いただけます。Minds で掲載しているガイドラインは、評価選定されています。二段階のスクリーニングを経て、診療ガイドライン評価ツールである AGREE II (Appraisal of Guidelines for Research & Evaluation II) で評価されます。その後診療ガイドライン選定部会により選定されます(詳しくは Minds ホームページの『評価選定に関する基本的考え方』をご参照ください)。

もう一つガイドラインを探すデータベースとして東邦大学・医中誌診療ガイドライン情報データベースをご紹介します。東邦大学医学メディアセンターと医学中央雑誌刊行会が共同で主宰するデータベースです。キーワードでの検索のほか、発行された期間や分類で検索することもできます。診療ガイドラインだけでなく、医療倫理や動物実験の指針といったものも提供されています。

東邦大学・医中誌診療ガイドライン情報データベース
<http://guideline.jamas.or.jp/?t=2>



Minds とは収録基準が異なりますので、Minds で検索できないガイドラインもこちらのデータベースに収録されている場合があります(詳しくは東邦大学・医中誌診療ガイドライン情報データベースホームページの「収録基準について」参照)。診療ガイドライン検索のデータベースは Minds と東邦大学の二つが代表的なものですので、まずはこちらの二つを検索してみるとよいでしょう。

では、次にガイドラインの出版形態についてご紹介します。ガイドラインといっても、単行本で出版されているものばかりではありません。先ほどデータベース紹介でも少し触れましたが、学会のホームページなどウェブ上で公開されているものも多くあります。また、学会誌の増刊号として出ているものもあります。

出版例：(左から) 単行本、学会誌増刊号、学会のホームページ



このように、さまざまな形態で発行されているため、まずは学会のホームページや google 等でのようなガイドラインが出ているかを調べるとよいでしょう。

ある疾患のガイドラインが発行された後、その関連疾患もまとめて上位概念の疾患名で発行される場合もあります。例えば「クモ膜下出血」は 2003 年に学会誌「脳卒中の外科」の増刊号として診療ガイドラインが発行され、それを基に 2004 年に「EBM に基づくクモ膜下出血診療ガイドライン」が刊行されています。その後、2008 年に改訂版が「脳卒中の外科」の増刊号として発行されています。一方、2004 年に関連学会等の合同編集で「脳卒中治療ガイドライン」が発行され、そこにもクモ膜下出血の治療部分について書かれています。同書は 2009 年と 2015 年に改訂版が発行されていますので、クモ膜下出血の治療について発行されている最新版は「脳卒中治療ガイドライン 2015 年版」ということになります。新しいガイドラインが出ると、商業誌等で特集が組まれ、ガイドラインの内容解説やガイドラインに含まれていない部分の補足記事が書かれるということもありますので、ガイドラインを探すときは医中誌で特集記事を調べる、google 等で関連情報を調べるなど広く検索することをお勧めします。出版されているものでまだ図書館に所蔵していないものは、リクエストいただければすぐに購入を検討いたします。カウンター前のオビニオンボックスからリクエストください。

E棟4階（総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門）

平成28年9月10日にA棟4階よりE棟4階に無事に引っ越しを済ませました。移転に伴い病床数がNICU18床から21床、GCUが12床から30床（現在稼働24床）へ増床になって大変忙しくなりました。

スタッフの方は、4月1日から教授が高橋幸博先生から病院教授西久保敏也先生になり新たな編成でスタートしました。看護師も新人8名が入り総勢68名（師長、主任、助手含む）の大所帯となりました。他職種連携として臨床心理士、薬剤師、理学療法士、言語療法士、医療相談室、地域連携室など共に頑張っています。

各フロアも広くなり、病児のいる場所にパイピンの設置、小手術室も完備されました。室内は木目調で目にやさしく働きやすい環境になりました。また調乳室も新しく設置され、委託で栄養師が配属になりました。

新生児集中治療部（NICU）では超低出生体重児（1000g未満）や病気をもった赤ちゃんの入院治療、また地域の産科と連携し赤ちゃんの搬送受け入れをしています。

後方回復室（GCU）は、ダンスホールくらいの広さがあり、赤ちゃんがとても小さく見えます。母乳育児支援として乳房ケア一室が設置され、お母さんは母乳育児に頑張っています。

産科病棟での低出生体重児、治療を要する（黄疸等）赤ちゃんの受け入れをしています。

母児同室の部屋が2室あります。在宅移行児は、小児センターに転棟後退院していましたが、今後は呼吸器装着児や育児に不安がある両親等もお部屋で過ごして頂き、在宅に向けての支援をしたいと思います。病院から自宅へ繋ぐ架け橋として頑張っていきます。

スタッフは日々、多様な家庭環境の両親への対応など、心が痛くなる患児と向き合い、一生懸命頑張っています。

奈良県下で唯一の超低出生体重児（1000g未満）や、外科的手術を受ける児を受け入れる新生児集中治療部です。

どうか一度、生命の神秘に、赤ちゃんに癒やされてみませんか。



NICUスタッフ



GCUメンバー



NICUフロア



GCUフロア

教育支援課

教育支援課は、教務係、入試・学生支援係及び医学情報係の3つの係で構成されています。

教務係は、授業及び試験の運営やカリキュラム編成、教育要項の作成、単位の認定、実習先との調整など教育に関わる業務全般を担当しており、先生方と協力しながら教育環境の改善に努めています。また、各種証明書の発行や国家試験の受験手続きなどにも携わっています。今年度から「良き医療人育成プログラム」を導入し、医学科と看護学科においてカリキュラムを一新し、多職種連携の第一歩として、医学科と看護学科の合同講義を新たに実施しています。

入試・学生支援係は、入試業務と学生支援業務が主な業務となります。入試に関しては、試験の実施及び分析、また入試広報として大学案内の作成やオープンキャンパス及び進学ガイダンスの開催等を行っています。学生支援に関しては、授業料減免制度や奨学金、クラブ活動、保険の手続きやカウンセリングの相談窓口、学生の留学や研究活動への助成など、学生生活全般について支援しています。

医学情報係は、附属図書館の管理及び運営を担当しています。全係員が司書の資格を持ち、医学関連情報の収集及び提供を担当しています。本学の所蔵資料から世界中の Web 上の資源まで、必要

とする情報を探し出します。もう一つ重要な役割として学習及び研究の場の提供があります。静かに自習できる空間、グループでディスカッションできる空間の双方を備えています。このように学内外にわたって学習や研究活動を日々支えています。

教育支援課は、先生方と協力しながら、より良い学生を確保するための選抜試験を実施し、学生が良き医療人となるための支援を行う課です。

学生のみなさんや先生方で、学生生活に関する相談や授業、カリキュラム編成などに関するご意見などがありましたら、気軽に当課にお立ち寄りください。

「良き医療人育成プログラム」の目標に向かって、職員が一丸となり、学生支援と教育環境の充実に取り組んでいきたいと思



学生の対応



附属図書館の風景

医療サービス課医療相談室

医療サービス課医療相談室の主な業務は、患者さんとそのご家族からの相談対応と病院収入の管理です。これらの業務を相談係、債権管理係の2つの係で担当しています。

相談対応は相談係が担当しており、病院北玄関すぐの総合案内、夜間救急玄関ホール前の総合相談窓口、E棟1階のがん相談支援センター、以上3つの窓口で各相談に対応しています。

初再診の手続きを始め病院機能の説明や誘導等の様々な事柄は、総合案内で対応しています。また、病院に対する意見や要望等を担当部署に取り次ぐなど、来院される方々が困ることなく安心して利用頂けるようサポートしています。

病気によって生じる社会的、経済的、心理的な相談は総合相談窓口で対応しています。公費助成制度の案内・申請支援、入院中・退院後の生活上の不安や悩み事など、療養生活に関する相談支援を行っています。社会的支援の必要な妊産婦・児童の支援や、長期療養の必要な慢性疾患患者さんへの継続した相談支援にも取り組んでいます。また、医療争訟、医療事故等に関する業務も担っています。

がん患者さんとそのご家族の医療や療養生活に関する悩み、心配事の相談は、がん相談支援センターで対応しています。患者同士の語り合いの場「患者サロン」の運営や、社会保険労務士やハローワークと連携し、就労・就職支援に取り組むほか、患者

図書や各種冊子の設置による情報提供も行っています。

病院収入の管理は債権管理係が担当しています。会計窓口に係る収納管理、支払基金・国保・労災等に係るレセプトの収入管理、支払い相談（分割納付・高額貸付・高額委任払い制度等）を始めとする窓口対応が主な業務です。また、未収事案に対しては、支払い督促や弁護士法人への回収委託を実施しています。

外来受診当日の診療費未払いに対して翌日に電話督促する取り組みも始めています。

以上の部門が連携・協働し、今後も相談対応と病院収入の適正管理に尽力したいと思



「みんなで繋ぐ」

女子バレー部は、医学科 15 名、看護学科 11 名、合わせて 26 名で構成されています。練習は毎週月、水、土の 3 回で、大学の体育館で行っています。医学科と看護学科の 2 チームに分かれており、練習は一緒にしますが、大会は 2 チームで出場しています。練習時間は平日は 2 時間、土曜日は 3 時間と他の部活と比べて少し短いですが、短い時間で集中して練習しています。

女子バレー部は、初心者も多く、練習中には先輩や同級生が丁寧に教えてくれるので、大学から始めても、練習試合や大会にたくさん出ることができます。練習は個人練習とチーム練習に分かれていて、個人練習ではひとりひとり教えてもらいながら、基礎的な練習を行っています。チーム練習では試合を意識し、みんなでチームの課題を乗り越えていくように練習しています。

バレーボールはチーム全員でボールを繋ぐスポーツなので、メンバーを思いやる気持ちをみんなが持っています。だから、1 点得点したときや、試合に勝利してきたときの喜びは、もちろん全員で分かち合うことができます。バレーボールがこういう競技だからこそ、女子バレー部は学年、学科を問わず仲が良いです。

奈良医大には珍しい女子だけの部活で、みんな仲良くやっていますので、ぜひ一度女子バレー部に遊びに来てください。



女子バレー部

部員 ▶ 26名
顧問 ▶ 嶋緑倫(小児科教授)
主将 ▶ 村山せい(医学科3年)
練習日 ▶ 月、水、土

「Swing!!」

皆様こんにちは！私達奈良医大軽音楽部は、医学科看護学科合わせて男子 12 名女子 18 名で構成され、月、水、土曜日の授業後、学内の教室や講堂を借りて練習しています。

軽音楽部というと、いわゆるロックやポップスをやるバンドをイメージすることが多いと思いますが、私達は、ビッグバンドジャズという大人数での音楽活動をしています。ビッグバンドでは、トランペット、トロンボーン、サクソといった管楽器に加え、ピアノ、ベース、ギター、ドラムのリズム楽器が一体となって音楽を作っていきます。

軽音楽部は、毎年 10 月に橿原文化会館大ホールを借りて、定期演奏会を行ったり、他大学との合同コンサートを行っており、それらに向けて日々練習しています。

合奏は、難しいことも多いですが、沢山の楽器と息を合わせてハーモニーやリズムを作ることが出来たときは、素晴らしく心地よく気分が上がります。

部員の半数以上は初心者スタートですが、2 年 3 年と練習していくうちに、見違えるほど上達して楽しくなっていきます。

学年、性別、学科関係なくとても仲のよい部活なので興味があれば是非軽音楽部に遊びに来て下さい！



軽音楽部

部員 ▶ 30名
顧問 ▶ 川口昌彦(麻醉科教授)
主将 ▶ 上西義則(医学科3年)
練習日 ▶ 月、水、土

留学生紹介

International Students Introduction

Dear reader,

My name is Semhar, I am a 23 years old biotechnology student from Lund University in Sweden. Currently I am working on my master thesis at the Department of Chemistry at NMU, under guidance of Professor Sakai. This is a great opportunity for me to obtain knowledge and experience on research regarding hemoglobin-based oxygen carriers.

I am staying in Japan for totally 6 months and from my stay so far I am very pleased with the kindness of the Japanese people. Every face that I see greets me with respect and a beautiful smile. I would love to have a

good chat with the people that I meet but since I do not have any knowledge in the Japanese language I have difficulties to communicate. However, I would like to say please do not hesitate to speak to me, I would love to learn some Japanese.

I wish you all a Happy New Year. May 2017 be prosperous, healthy and bright.

Sincerely,
Semhar GHIRMAI



平成28年度白檀生祭のご報告

白檀生祭実行委員長 美波 直岐

秋深まる澄みきった青空のもと、平成28年10月29日、30日に平成28年度奈良県立医科大学白檀生祭を開催させて頂きました。

「奈良医大らしさとは何か？」この問いが私たち学祭実行委員の出発点となりました。白檀生祭を立ち上げるにあたって、私たちには、他の大学には真似のできない独自性を追求したいという思いがありました。最先端の医療技術をはじめとして、広がる豊かな自然、由緒ある歴史的遺産や町並みなど、少し目を向ければ奈良医大は魅力に溢れています。多様な魅力が集まる「奈良という土地との繋がり」と「医療に特化した大学」であることが我々のかけがえのない財産である。これこそが先ほどの問いに対する私たちの答えでした。大学祭を通して、いままで見過ごされていた地元の魅力を発掘し、自身の健康を振り返るとともに健康と医療の密接な繋がりを感じてもらいたい。このような思いを込め、本年度白檀生祭のテーマ「奈良に恋する2日間～あなたと医療のキョリ、縮めます～」が決定しました。数えきれないほど多くの方々のご支援ご協力に支えられつつ、来場者皆様がお楽しみいただける大学祭になったと思っております。

大講堂で行われた講演会では、著名なの方々をお招きして素晴らしいお話を頂きました。サッカー元日本代表、サッカー解説者の松本太郎氏に「負けてたまるかサッカー人生」というお題で、諦めないための気持ちの持ち方や成功に導くための組織論について熱く語って頂きました。

また平成28年はオリンピックイヤーでもあり、本学整形外科科学教室の熊井司教授と川手健次教授にスポーツ医学の観点から再生医療についてご講演頂きました。なんと熊井先生ご講演中、新体操日本代表フェアリージャパン皆川選手がサプライズで登場され、華麗な演技を披露してくださいました。

今年も野外ステージにて「よしもとお笑いライブ」を開催し、天竺鼠、ミサイルマン、アインシュタインが会場を爆笑の渦で包み、ステージ前は人で溢れ熱気に満ちていました。ステージイベントでは、軽音学部、ライブワイヤー部、ダンス部が音楽で観客を魅了し、本学ナンバー1の美男美女を決めるミスコン・ミ

スターコンでは地域呉服屋さん衣装貸出から着付けまでご協力してくださり、出場者の美しさをより一層際立てていました。大食い選手権では、奈良の老舗「だんご庄」さんにだんごを提供して頂きました。

平成28年地域との繋がりを重視した企画として、「なら×かしはらグルメフェア」と「今井町衆市」を開催しました。グルメフェアでは7店舗に出店して頂き、各店舗とも売り切れが続出し大盛況でした。今井町衆市では、古き良き街並みを残す今井町ゆかりの店舗に出店頂き、大学祭入り口が情緒を感じさせる今井町カラーで埋め尽くされました。

昨年度誕生した学祭マスコットキャラクター「しょうとくた医師くん」は、幼稚園や地域イベント、学会出張など精力的に活動しております。今年は学生が作詞作曲したテーマソングや音楽系部活とコラボしたPVの作成、病院内案内動画作成を行いました。10月10日にイオンモール橿原にて行われた学祭イベントでは、大人気のため一緒に写真を撮りたいお子様連れファミリーの行列ができていました。

白檀生祭を行うにあたり大変貴重な経験を積ませて頂きました。信頼関係を築くことや課題をどのように解決していくかなど、医師になってからも今後の人生において大きな糧となるかと思います。

最後になりましたが、平成28年度奈良県立医科大学白檀生祭を開催するにあたり、様々な形で協力して下さった同窓会様、大学当局及び関係者各位、並びにご指導ご鞭撻くださった諸先生方、先輩方にはこの場をお借りして白檀生祭実行委員一同深く御礼申し上げます。



フェアリージャパン皆川選手との集合写真



オープニングの様子

ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI (研究成果の社会還元・普及事業)を実施しました

平成 28 年 10 月 29 日、本学において「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI (研究成果の社会還元・普及事業)」を実施しました。

この事業は、科研費によって行われる最先端の科学の研究成果について、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムで、今回は『iPS 細胞から臓器ができるの?～培養皿で動く腸管 (iGut) をみてみよう!～』(実施代表者: 消化器・総合外科学 山田高嗣講師)と題し、高校生を対象に実施しました。

募集開始からすぐに定員に達する人気ぶりで、全国から熱心な高校生が参加し、iPS 細胞から、人工腸管 (iGut) を立体臓器として作る方法を学びました。第 1 部では、講師陣から体験談や実績を織り交ぜながら、再生医療、iPS 細胞の特性や ES 細胞との違いなどの講義があり、第 2 部ではピペットを使って培養液を培養皿のフタの裏に吊り下げる「懸垂培養」を体

験。懸垂培養の難しさや実験に対する真摯な態度を学びました。また 7 名の医学生がアシスタントとして実験をサポートする間に、医学生としての学生生活の様子などを高校生に語ったり、質問を受け、和気藹々とした交流もありました。

高校生からは、将来、医師になって医学研究、とくに再生医療に貢献したいという感想が多くみられ、大好評でした。プログラム終了後、受講生一人一人に未来にはばたく知識を取得した証として、修了証書「未来博士号」が授与されました。



全員で記念撮影



「懸垂培養」を真剣に観察

高大連携教育を推進しています

本学では、高校生の理科に対する興味を高めるため、高校生を対象とした大学での講義、実習の体験的学習を行っています。

今回は平成 28 年 12 月 15 日に昨年同様「カメ」をテーマにして、本学の生物学実習室で開催し、畝傍高校の生徒 11 名が参加しました。当日は、神戸市立須磨海浜水族園でカメの研究をされている谷口真理さんによる講義の後、須磨海浜水族園から提供いただいたカメの解剖を、生物学教室教員 3 名と谷口さんの 4 名の指導のもとで行いました。高校生は普段の授業では体験できない実習に熱心に取り組みました。

私は今回、生物部の先輩の誘いでこの講座に参加しました。私は理型生物を選択したので、一度も体験したことのない生物の解剖を体験することのできた良い機会でした。

私は中学生の頃、部活動 (聖徳中学校の郷土自然部) で、飛鳥川でミシシippia カミミガメを捕獲し、須磨水族園の亀楽園へ持って行ったことがあるのですが、今回の講義で、全国に広まってしまうと駆除が本当に大変なのだと良く分かりました。

また、解剖では、初めはうまく解剖できませんでしたが、医大の先生方や先輩に教えていただいて、消化管が実際に一本の管であるということ、目で見て、手で触って確認できました。さらに、肺が膨らむ様子も見ることができました。心臓が動く様子は見ることはできなかったのですが、来年機会があればまた挑戦したいと思います。この講座で学んだ事をこれからの生物の

学習に活かしたいと思います。

(1 年男子生徒)

私は、今回初めてカメの解剖をしました。生き物の解剖自体が初めてだったので、最初は不安もありましたが、カメの専門家の方や奈良医大の先生の説明を聞いて、カメの命を無駄にしないように十分に学ぼうと思いました。

一人一匹ずつ麻酔の効いたカメをもらって、殺すところから自分たちでやらせてもらいました。できるだけ苦しめないような方法で殺すことは、解剖実験で大切だと知りました。カメの甲羅を切り離し、膜を切除していくと、体内の様々な臓器を観察できました。死んだ後しばらくは心臓が拍動していたのには、生命の力強さを感じました。他にも、消化管の構造や、肺の膨らむ様子が見られました。戸惑いながらも、先生方に助けをもらいながら、本当に貴重な体験ができたと思います。生物選択者としては、今後の学習に生かしていきたいです。

(2 年女子生徒)



実習終了後の集合写真



実習の様子

医学部医学科で「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました

平成 28 年 12 月 9 日に、本学大講堂において、医学科 4 年生 118 名の Student Doctor 認定証・白衣授与式が執り行われました。この授与式は、入学して 4 年間で基本的な医学的知識と技能を修得し、医療系大学間共用試験 (CBT・OSCE) に合格した 118 人の学生に対し、附属病院等での 72 週間に及ぶ臨床実習に向け、医師を志す者としての自覚を促すため、平成 27 年度より開催し、今年度で 2 回目の開催となります。

まず、細井学長より激励のお言葉をいただきました。その後、代表学生 4 名に対して、学長から全国医学部長病院長会議から交付される「Student Doctor 認定証」が手渡され、続いて学長・医学部長・附属病院長・同窓会長から、それぞれ白衣が授与されました。今年度より、医学科同窓会から大学名と学生氏名が刺繍された白衣の寄贈いただきました。白衣授与後、学生を代表して、総代の三好智浩さんが臨床実習において医師となる自覚と責任を培っていくことを宣誓しました。

白衣授与式挙行前には、医学科全学年を対象とした保護者説明会も開催し、白衣授与式には引き続き、多数の保護者の方にも参列いただきました。厳肅な雰囲気の中にも、保護者の方の見守る温かい雰囲気の白衣授与式となりました。

臨床実習が始まって

医学部医学科 新 5 年 三好 智浩

数多くの患者さんと対峙する日々が始まり、早くも 2 週間が経ちました。

学んできた様々なことが、目の前の患者さんの治療に繋がっていくということに対し、一種の高揚感を抱く一方で、自らの無知が最終的に患者さんの命を奪いかねないという緊張感も持ちながら日々実習に臨んでおります。

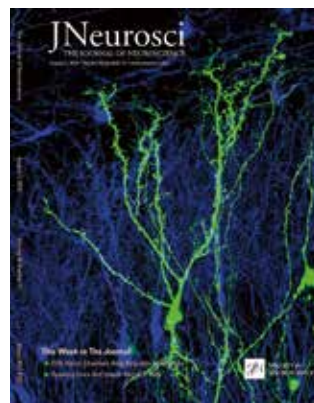
これからも様々な科で臨床実習をさせていただきますが、ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い致します。



世界初、においを感じる度合いを調節する神経メカニズムを解明！

本学脳神経システム医科学講座の坪井昭夫教授は、英国マンチェスター大学癌科学研究所の Peter L Stern 教授や本学生理学第一講座などとの共同で、嗅覚の情報処理を行っている神経細胞が発達する際に、5T4 という膜タンパク質が、においを感じる度合いを調節するのに重要な働きをすることを発見しました。5T4 遺伝子が欠損したマウスでは、神経細胞どうしの接続が減少することにより、においを感じる度合いが 100 倍も低下し、においの嗅ぎ分けもできなくなることを突きとめました。本研究の成果から、もしヒトの 5T4 遺伝子に有害な変異が生じると、神経細胞どうしの接続が減少することにより、においを感じられない、嗅ぎ分けられないという可能性が推測さ

れますので、嗅覚障害などの神経疾患の予防や治療につながると期待されます。本研究の成果は、米国科学誌『The Journal of Neuroscience』(8月3日号)に掲載され、その号の表紙を飾り(右写真)、さらに、奈良・読売・朝日新聞など各紙に取り上げられ、奈良・NHKなどのテレビ局でも放映されました。



総合防災訓練を実施しました

平成 28 年 12 月 7 日に学内全域を対象とし防災力の向上を図るため、総合防災訓練を実施しました。

◆総合防災訓練

総合防災訓練は学内全域を対象とし防災力の向上を図るため、大規模地震が発生したとの想定の下、2部構成で実施しました。奈良県広域消防組合橿原消防署にも参加いただいた訓練は、総勢 200 名を超える大規模なものとなりました。

第 1 部訓練では大規模地震発生直後の人命を守る救出、救護、避難誘導の活動をはじめ、多発する火災に対する消火活動などを「災害対策本部」「自衛消防・防災隊」「病棟」の各組織が連携して総合的に行いました。

災害時にすべきことを具体的なイメージとして多くの職員が共有できたと思います。また、その中で出てきた課題を認識できたことも大きな成果であると考えております。このような訓練を繰り返すことで、実際に災害が起こったときにも、全職員が慌てず、すべきことを理解してスムーズな行動をして、より多くの人を救命することにつながります。

▶自衛消防訓練(第1部訓練)

震度 6 弱の強い揺れが観測され、看護学科棟、A 病棟 5 階では火災発生及び要救出者が生じたとの想定の下、自衛消防・防災隊の各地区隊が消火、救出、救護、避難誘導活動を行いました。



さらに A 病棟 5 階では、アクションカードを活用した実践的な活動を実施。また、模擬患者の担架搬送・介添え誘導訓練に取り組みました。



▶訓練検証会(第2部訓練)

訓練検証会を開催。橿原消防署 吉川署長・辻井課長からそれぞれ 1 部訓練に対する講評をいただきました。



玉井進記念四肢外傷センター設立記念展示を行っています

本学名誉教授の玉井進先生が世界で初めて完全切断指の再接着を成功させて50年の年にあたる昨年に、「玉井進記念四肢外傷センター」を設立しました。

本センターの設立を記念して、玉井先生の業績を紹介するとともに、先生ゆかりの品々を展示しております。先生の功績を広く県民の皆様や今後医学を志す方々に知っていただけましたら幸いです。本学にお越しの際は是非お立ち寄りください。



玉井先生（右端）と本学役員等

●**展示場所**…奈良県立医科大学 附属図書館1階、附属病院1階正面玄関（案内展示）

●**展示内容**…玉井先生略歴書、完全切断母指再接着展示パネル、玉井先生愛用の道具 等



附属図書館1階 記念展示

防災講演会を開催しました

平成28年11月21日（月）に防災講演会を開催しました。

この講演会は、巨大地震等が本学・附属病院にもたらす被害や、減災のために事前にとっておくべき対策、発生後の対応などについて、講演会を通じ改めて本学職員等に周知・認識してもらい、防災意識を高める目的で開催しました。

講師には、関西大学社会安全研究センター長・教授河田恵昭先生（元京都大学防災研究所長、奈良県地域防災計画検討委員会座長）をお迎えし、「奈良県立医科大学として最も考慮しなければならない地震災害とその対策」と題して、本学としての対応について考慮すべき観点や、事業継続計画（BCP）等についてお話いただきました。



講演いただいた河田恵昭先生

組換えDNA実験安全委員会研修会の開催

昨年（平成28年）春の本学と奈良先端大学院大学の遺伝子組換え体漏出の事案を受け、文部科学省から全国の教育研究機関に対し、カルタヘナ法遵守の徹底に関する通達が出され、本学では、外部委員の導入を含めた再発防止の徹底を義務付けました。

その一環として平成28年11月22日に組換えDNA実験安全委員会の研修会を開催しました。

新しく外部委員に就任された大手前大学教授・神戸大学名誉教授 南森隆司教授に「遺伝子組換え実験実施モラルとしてのカルタヘナ法」と題し、ご講演いただきました。

南森教授は研究者がカルタヘナ法の趣旨を十分に理解し、安全に組換えDNA実験を行うことが研究者としてのモラルであることを話されました。



講演いただいた南森先生

平成28年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました

受賞者 精神医学 助教 **山室 和彦**
リウマチセンター 診療助教 **藤村 貴則**

平成28年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者に、本学から上記の2名の先生方の受賞が決定しました。

奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために、奈良県医師会により贈呈される賞です。

平成28年11月24日に奈良県医師会館にて授与式が行われ、受賞された先生方には、賞状及び金一封が贈呈されました。

毎年3月頃に、各所属に応募案内を配布しています。若手研究者の方々の積極的なご応募をお待ちしております。



精神医学 山室和彦助教



リウマチセンター 藤村貴則診療助教

平成28年度(第1・2回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

平成28年度若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の方々に決定しました。(第1回3名、第2回4名)

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。年3回各所属に応募要項を案内しますので、積極的なご応募をお待ちしています。

	所属	職名	氏名
【第1回】	健康政策医学	大学院生	岸本 美和
	リウマチセンター	診療助教	藤村 貴則
	微生物感染症学	講師	中野 竜一
【第2回】	神経内科	助教	正島 良悟
	病理診断学	診療助教	内山 智子
	脳神経外科	助教	竹島 靖浩
	泌尿器科	医員	森澤 洋介

日本感染症学会地方会で最優秀賞を受賞しました

臨床研修センター 初期臨床研修医2年
公衆衛生学講座 大学院博士課程1年 **西岡 祐一**

日本感染症学会地方会(合同開催:第86回日本感染症学会西日本地方学術集会・第59回日本感染症学会中日本地方学術集会・第64回日本化学療法学会西日本支部総会)が2016年11月末に沖縄で行われました。感染症センター研修中に経験させていただいた症例について、「透析導入前に発症した *Mycobacterium wolinskyi* による腹膜透析関連腹膜炎の1例」として報告しました。

おかげさまで、研修医セッション1で最優秀賞をいただくことができました。

本症例は、腹膜透析関連腹膜炎の起因为として *Mycobacterium wolinskyi* という大変珍しい菌が同定され、治療方針について、様々な文献を当たってじっくりと考えることができた感染症センターでの研修の中で最も印象に残っている

症例です。

本発表に際し、丁寧にご指導いただきました感染症センターの藤倉先生をはじめとする先生方・微生物感染症学講座の矢野先生・中央臨床検査部の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

受賞を励みに、今後ますます精進して参ります。まだまだ研究者としても、臨床医としても未熟な私ですが、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



WFH 2016 WORLD CONGRESSでArosenius fund 賞を受賞しました

小児科学 教授 嶋 緑倫

このたび、平成 28 年 7 月 24 日から 28 日米国オランダ市で開催されました World Federation of Hemophilia 2016 World Congress のシンポジウムで発表した「Alternative therapies for the management of inhibitors Novel treatment strategies for inhibitor patients」が Arosenius fund 賞を受賞しました。本学会は血友病および関連疾患を焦点に毎回 5,000 人もの血友病医療従事者と患者さんが集まる学

会です。今回は、奈良医大小児科と中外製薬が共同開発した第 VIII 因子代替バイスペシフィック抗体に関する最新知見を中心に新規血友病治療製剤の開発状況について発表しました。この研究は、中外製薬との産学連携、奈良医大小児科同門の先生方がこれまで築いてこられました血友病の診療と研究の蓄積と教室員の努力の賜物であり心より感謝申し上げます。



第 23 回日本時間生物学会学術大会で優秀ポスター賞を受賞しました

医学部医学科 5 年 大梅 成崇 疫学・予防医学講座 学部研究生

【受賞対象研究題目】

「客観的睡眠の質と夜間血圧の関連：平城京コホートスタディ」

本学医学部医学科 5 年の大梅成崇 学部研究生（本学疫学・予防医学講座）が、平成 28 年 11 月 12 日～13 日に愛知県名古屋で開催された第 23 回日本時間生物学会学術大会で優秀ポスター賞を受賞しました。日本時間生物学会は、あらゆる生物（植物やバクテリアからヒトまで）のリズム現象を扱う学際的な

学術団体であり、世界的に著名な研究者が多く所属する学会です。今回の受賞は本学疫学・予防医学講座で平成 22 年から実施している前向きコホート研究（平城京スタディ）の横断解析で、アクチグラフ（腕時計型体動計）により客観的に測定した睡眠の質の低下が夜間血圧の上昇と関連していることを明らかにしたことが評価されたものです。これを励みにさらに研究活動を継続していただけることを期待します。



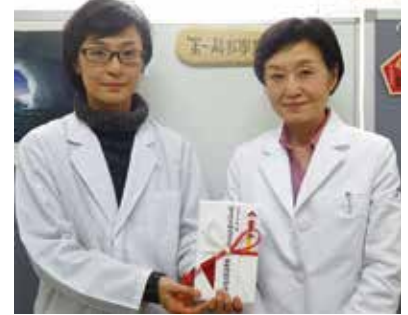
第 43 回日本神経内分泌学会学術集会以「若手研究 帝人ファーマ助成金」を受領しました

第一解剖学教室 講師 堀井 謹子

平成 28 年 10 月 14～15 日に静岡県浜松市で開催された第 43 回日本神経内分泌学会学術集会以おきまして、「外側中隔へ投射する前視床下部脳弓周囲野ウロコルチン 3/エンケファリン共発現ニューロンの機能解析」の研究題目につき、「若手研究 帝人ファーマ助成金」を受領致しました。以下にその研究内容について御紹介致します。

本研究は、私達の研究室が最近、マウスの脳に発見した新しい視床下部領域、「Perifornical area of the anterior hypothalamus (PeFAH)」を対象とした研究です。本研究は、PeFAH の機能解明へ向けて、光遺伝学と薬理遺伝学の手法を

取り入れながら、PeFAH が制御する行動と内分泌系への作用を明らかにすることを目的としています。PeFAH の機能が解明された際は、視床下部が担う新たな機能を提唱できると考えています。最後になりましたが、日頃より研究の御指導を頂いている西真弓先生ならびに実験をサポートして下さっている大学院生や女性研究者支援員の方々に心より感謝申し上げます。



第 37 回奈良県公衆衛生学会で優秀演題賞を受賞しました

公衆衛生学講座 大学院修士課程 吉井 克昌

第 37 回奈良県公衆衛生学会で発表した演題「奈良県総合医療センターの開設が救急搬送へ与えたインパクト」で、この度優秀演題賞を受賞しました。

救急搬送に苦慮していた奈良県の南和医療圏で、公的な 3 病院が集約され開院されたインパクトと近隣を含む奈良県の中南和エリアでの救急搬送の分布の変化を検討しました。地域に関す

る研究を通して、少しでも社会貢献できるように尽力していく所存ですので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。最後に指導して頂きました公衆衛生学講座の今村教授、野田講師をはじめ講座の皆様、この場をお借りして深く御礼申し上げます。



日本超音波医学会第43回関西地方会学術集会で新人賞・最優秀賞を受賞しました

放射線医学 医員 松井 由実

このたび、平成28年9月28日に行われた日本超音波医学会第43回関西地方会学術集会で発表した演題「腺扁平上皮癌と乳頭状腺癌の異なる組織像を画像で描出し得た胆嚢癌の一例」で新人賞・最優秀賞を頂きました。異なる組織の胆嚢癌に対し造影超音波を用いて造影効果や組織内部の血管構築の違いを明瞭に描出し、さらに術前診断が困難な胆嚢壁肥厚性病変の鑑別診断に造影超音波が一助となる可能性が示唆されました。超音波検査は患者さんへの負担も少なく、またCT、MRIでは得られないリアルタイムで組織が造影される様子や動きをとら

えることが出来ることが大きな利点だと思います。今後も症例を重ね、頑張りたいと思います。今回の発表にあたり、総合画像診断センター平井都始子教授、丸上永晃先生を始めとして多くの先生方にたくさんのご指導を賜りました。心より感謝申し上げます。



第102回北米放射線学会 (RSNA 2016) の Education ExhibitでCertificate of Meritを受賞しました

総合画像診断センター 講師 丸上 永晃

第102回北米放射線学会 (RSNA 2016) の Education ExhibitでCertificate of Meritを受賞することができました。今回の発表では、これまで診断しえた急性陰嚢症の超音波画像をわかりやすくまとめて提示しました。総合画像診断センターでは、心臓を除くすべての領域において最新鋭の超音波装置を中央部門の一員として使用できる環境にあります。とても責任ある仕事で苦勞も多いなか、日常臨床で撮影した超音波画像が世界に認められたものとして、大変うれしく光栄に思っ

ております。これからも患者さんのために、そしてこれから超音波を学ぶ若い画像診断医や臨床医の先生方のために頑張る所存です。最後に、共同演者の平井先生や吉川先生をはじめ、カンファレンスや日々の症例などでお世話になっている泌尿器科の先生方に改めて感謝申し上げます。



Asian Pacific Digestive Week (APDW) 2016において Poster of Distinguished Award 5位に入選しました

内科学第三 大学院生 佐藤 慎哉

内科学第三講座の佐藤慎哉 院生による研究「Sarcopenia impairs male hepatic functional reserve」が2016年11月2～5日、神戸で開催されたアジア太平洋消化器病週間2016 (Asia Pacific Digestive Week : APDW) において Poster of Distinguished Award 5位に入選しました。本学会はアジア

での消化器領域における学術集会であり、Poster of Distinguished Award はポスター発表のうち23演題が選ばれ、さらに上位5位までが表彰されるものです。



Asian Pacific Digestive Week (APDW) 2016において Poster of Distinguished Awardを受賞しました

内科学第三 大学院生 西村 典久

内科学第三講座の大学院生 西村典久による研究「A sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor ameliorates liver fibrosis development via improving insulin resistance in diabetic Otsuka Long-Evans Tokushima Fatty rats」が2016年11月2～4日、神戸で開催されたAPDW 2016 (Asian Pacific Digestive Week:APDW) において Poster of

Distinguished Awardを受賞しました。本学会はアジア太平洋地域における消化器病分野の学術集会であり、多数応募されたポスター発表の中から優秀演題として選出されました。

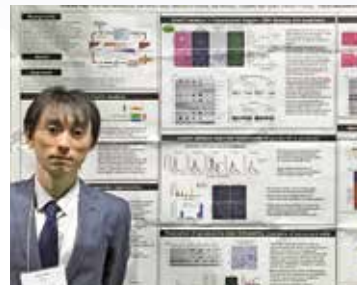


The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD) 2016においてPresidential Poster of Distinctionを受賞しました

内科学第三 診療助教 鍛冶 孝祐

内科学第三講座の鍛冶孝祐助教による研究「DNMT1-deleted hepatocytes cause promoted replicative senescence and induce liver fibrosis development with global DNA hypomethylation」が2016年11月11～15日、米国Bostonで開催された米国肝臓学会2016(Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases:AASLD)においてPresidential Poster of

Distinctionを受賞しました。本学会は、肝臓学分野における世界的な学術集会であり、Presidential Poster of Distinctionは2000題を超えるポスター発表のうち、上位10%の優秀な業績に与えられるものです。



第214回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞(最優秀演題賞)を受賞しました

神経内科学 後期研修医 井口 直彦

平成28年12月3日に大阪市で開催された第214回日本内科学会近畿地方会において、本学会で創設されて3回目となる若手奨励賞セッション(口演発表)で、本学神経内科学講座の井口直彦後期研修医が50題以上の中から選ばれ、最優秀演題賞を受賞しました。演題「体幹の疼痛で発症し自律神経障害を伴ったサルコイドーシスの1例」は、当科と本学皮膚科学講座との共同研究によるもので、体幹疼痛と自律神経障害を来す神経サルコイドーシスの病態と病変部位、発症機序を考える上で重要な症例検討でした。本学会の若手奨励賞は、20人を越える審査

委員の厳正な選考により授与されたものです。若手医師にとっては今後の内科学診療および研究の大きな励みとなり、今後さらに研究の発展に貢献してくれるものと考えます。



平成28年度秋の叙勲受章

この度、下記の方が栄誉ある勲章を受けられました。
これは、国家又は公共のために功労のあった方を対象に授与されています。

◆ 瑞宝単光章 谷 久代 氏(元看護副部長)

平成28年度医学教育等関係業務功労者表彰

この度、下記の方が平成28年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました。
これは、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に長年従事され、顕著な功績のあった方を対象に授与されています。

◆ 杉田 尚子 氏(B病棟7階看護師)

平成28年度 外部資金獲得状況

125件 365,252,483円 (間接経費を含む) (平成28年12月15日現在) ※文部科学省科学研究費助成事業を除く

(1) 平成28年度厚生労働科学研究費補助金

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	2500人の糖尿病患者集団の10年予後からみた治療戦略に対する検討
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策に関する研究
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療情報の活用のための疾患及び関連保健問題の国際統計分類のあり方に関する研究
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	病床機能の分化・連携や病床の効果的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	NDB・DPCデータを用いた循環器・血液領域の医療の質の評価に関する研究

② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	難病患者の福祉サービス活用によるADL向上に関する研究	国立障害者リハビリテーションセンター 深津 玲子
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	准教授	赤羽 学	行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策に関する研究	公衆衛生学 今村 知明
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	バイオテクノロジーを用いて得られた食品のリスク管理及び国民受容に関する研究	東京農業大学 五十君 静信
食品の安全確保推進研究事業 (カネミ油症に関する研究)	公衆衛生学	准教授	赤羽 学	食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究	九州大学 古江 増隆
政策科学総合研究事業 (統計情報総合研究事業)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	患者調査に基づく受療状況の解析と総患者数の推計に関する研究	藤田保健衛生大学 橋本 修二
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	病床機能の分化・連携や病床の効果的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究	公衆衛生学 今村 知明
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	救急医療体制の推進に関する研究	一般財団法人 救急振興財団 山本 保博
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	神経内科学	准教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患に関する調査研究	東北大学 青木 正志
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患の診療ガイドライン作成と患者レジストリの構築	名古屋大学 木村 宏
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	神経内科学	教授	上野 聡	スモンに関する調査研究	国立病院機構鈴鹿病院 小長谷 正明
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	島根大学 森田 栄伸
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	輸血部	教授	松本 雅則	血液凝固異常症等に関する研究	慶應義塾大学 村田 満
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	整形外科	講師	谷口 晃	早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究	千葉大学 横手 幸太郎
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	第二内科学	教授	木村 弘	呼吸不全に関する調査研究	千葉大学 巽 浩一郎
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	ドクターヘリの適正配置・利用に関する研究	東海大学 猪口 貞樹
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	輸血部	教授	松本 雅則	循環器難病に随伴する後天性フォンウィルブランド症候群の診断基準・重症度分類の確立	東北大学 堀内 久徳
障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	高次脳機能障害者の社会的行動障害による社会参加困難への対応に関する研究	国立障害者リハビリテーションセンター 中島 八十一
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	第一内科学	教授	斎藤 能彦	特発性心筋症に関する調査研究	九州大学 筒井 裕之
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	形成外科	病院教授	桑原 理充	肥厚性皮膚骨膜炎の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究	国立成育医療研究センター 新聞 寛徳
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	感染症センター	准教授	笠原 敬	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究	国立感染症研究所 大石 和徳
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	既存データベースの活用による虚血性心疾患・大動脈疾患診療の実態把握ならびに医療体制構築に向けた指標の確立のための研究	大阪大学 坂田 泰史
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	既存データベースの活用による虚血性心疾患・大動脈疾患診療の実態把握ならびに医療体制構築に向けた指標の確立のための研究	大阪大学 坂田 泰史

政策科学総合研究事業 (臨床研究等ICT基盤構築研究事業)	第一内科学	教授	斎藤 能彦	電子カルテ情報をセマンティクス(意味・内容)の標準化により分析可能なデータに変換するための研究	国立循環器病研究センター 宮本 恵宏
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	整形外科	教授	田中 康仁	糖尿病及び慢性腎不全による合併症足潰瘍・壊疽等の重症下肢虚血重症化の予防に関する実態調査	医療法人社団 廣仁会 褥瘡・創傷治療研究所 大浦 武彦
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	NDB・DPCデータを用いた循環器・血液領域の医療の質の評価に関する研究	公衆衛生学 野田 龍也

(2) 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	主任研究者名等
循環器病研究開発費	第一内科学	教授	斎藤 能彦	糖尿病患者における心血管疾患予防の最適化に関する研究	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 野口 暉夫
循環器病研究開発費	第一内科学	教授	斎藤 能彦	本邦におけるHFpEFの実態に関する多施設共同調査研究	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 安齊 俊久
循環器病研究開発費	精神医学	准教授	安野 史彦	心血管リスクに伴う認知症発症機序の解明とその解決	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 猪原 匡史
循環器病研究開発費	第一内科学	教授	斎藤 能彦	循環器疾患診療実態調査(JROAD)におけるJROAD-DPCと臨床データのValidationに関する研究	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 安田 聡

(3) 総務省

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
戦略的情報通信研究開発 推進事業<SCOPE>	産婦人科学	教授	小林 浩	循環器疾患患者を対象とした在宅ヘルスケア・システムの研究開発

(4) 経済産業省

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
戦略的基盤技術高度化支援事業	整形外科兼 スポーツ医学 講座(寄附講座)	学内講師	小川 宗宏	膝回旋不安定性の非侵襲的かつ簡便な定量化技術の開発
戦略的基盤技術高度化支援事業	産婦人科学	教授	小林 浩	低侵襲に子宮内膜症の悪性を評価できる光学経膈プローブの開発

(5) 中小企業庁

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
ものづくり・商業・ サービス革新補助金	産婦人科学	教授	小林 浩	妊婦見守りシステム用胎児心拍計測高性能マルチ生体電極の実用化開発事業
ものづくり・商業・ サービス革新補助金	化学	教授	酒井 宏水	小動物の輸血を代替する動物用人工赤血球製造法の開発
ものづくり・商業・ サービス革新補助金	スポーツ医学 講座	教授 (寄附講座)	熊井 司	モバイル型振動発生機の評価

(6) 農林水産省

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
農林水産政策科学研究委託事業		理事長・学長	細井 裕司	「大和漢方」の産地形成と薬用作物の園芸療法を通じた医学エビデンスにもとづく「農村医療観光」による6次産業の創出

(7) 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
橋渡し研究加速ネットワークプログラム	麻酔科学	講師	林 浩伸	胸部大動脈手術に対応するレーザースペックル法に基づく眼底血流測定装置の開発
橋渡し研究加速ネットワークプログラム	中央手術部	助教	新城 武明	球海綿体反射モニタリングに対応する神経刺激電極付き尿道カテーテルの開発
臨床研究・試験推進研究事業	化学	教授	酒井 宏水	備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究
感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業	小児科学	教授	嶋 緑倫	血友病とその治療に伴う種々の合併症克服に関する研究
医薬品等規制調和・評価研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発
再生医療実用化研究事業	整形外科	助教	稲垣 有佐	関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復・多施設共同、非盲検、ランダム化、並行比較試験
難治性疾患実用化研究事業	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学	教授	北原 紘	難治性めまい疾患の診療の質を高める研究
新興・再興感染症に対する革新的 医薬品等開発推進研究事業	皮膚科学	准教授	小豆澤 宏明	マイクロニードル技術を活用した「貼るワクチン製剤」の実用化推進研究

Winner Report

難治性疾患実用化研究事業	皮膚科学	准教授	小豆澤 宏明	重症薬疹における特異的細胞死誘導受容体をターゲットにした新規治療薬開発
難治性疾患実用化研究事業	神経内科学	助教	桐山 敬生	視神経脊髄炎の再発に対するリツキシマブの有用性を検証する第Ⅱ/Ⅲ相多施設共同ブラセボ対照無作為化試験
難治性疾患実用化研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	遺伝性心血管疾患における集中的な遺伝子解析及び原因究明に関する研究
感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業	健康管理 センター	准教授	古西 満	ART 早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究
女性の健康の包括的支援実用化 研究事業	産婦人科学	教授	小林 浩	子宮内膜症の病態解明、および予防・治療法の開発
革新的がん医療実用化研究事業	放射線医学	准教授	田中 利洋	最新のIVRによる症状緩和についての研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策実用化研究事業	第一内科学	教授 助教	斎藤 能彦 (~H28.6.29まで) 岡山 悟志 (H28.6.30~)	脳卒中を含む循環器病の診療情報の収集のためのシステムの開発に関する研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策実用化研究事業	第一内科学	教授 助教	斎藤 能彦 (~H28.6.29まで) 岡山 悟志 (H28.6.30~)	慢性心不全患者に対する多職種介入を伴う外来・在宅心臓リハビリテーションの臨床的効果と医療経済的効果を調べる研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策実用化研究事業	第一内科学	教授 助教	斎藤 能彦 (~H28.6.29まで) 岡山 悟志 (H28.6.30~)	脳卒中を含む循環器病対策の評価指標の開発に関する研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策実用化研究事業	第一内科学	教授 助教	斎藤 能彦 (~H28.6.29まで) 岡山 悟志 (H28.6.30~)	脳卒中を含む急性循環器疾患の救急医療の適確化をめざした評価指標の確立に関する研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策実用化研究事業	救急医学	教授	奥地 一夫	脳卒中を含む急性循環器疾患の救急医療の適確化をめざした評価指標の確立に関する研究
早期探索的・国際水準臨床研究事業	泌尿器科学	教授	藤本 清秀	標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発
早期探索的・国際水準臨床研究事業	泌尿器科学	博士研究員	平尾 佳彦	標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発
長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業	精神医学	教授	岸本 年史	精神疾患患者に対する早期介入とその体制の確立のための研究
免疫アレルギー疾患等実用化研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	新規分子標的薬による皮膚障害の調査および重症化予防の研究
医薬品等規制調和・評価研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	さらなる適正使用に向けた、血液製剤の使用と輸血療法の実施に関する研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策実用化研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	日本人糖尿病の合併症重症度評価パネルの確立と重症化予防の為に効果的医療連携体制の構築
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病 対策実用化研究事業	眼科学	教授	緒方 奈保子	日本人糖尿病の合併症重症度評価パネルの確立と重症化予防の為に効果的医療連携体制の構築
地域横断的ICT活用医療推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	レセプト等の大規模電子診療情報を活用した薬剤疫学研究を含む医療パフォーマンス評価に関する研究
地域横断的ICT活用医療推進研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	レセプト等の大規模電子診療情報を活用した薬剤疫学研究を含む医療パフォーマンス評価に関する研究
難治性疾患実用化研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究
臨床研究等ICT基盤構築研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療の質向上を目的とした臨床データベースの共通プラットフォームの構築
革新的先端研究開発支援事業	物理学	講師	高木 拓明	1分子・質量イメージング顕微鏡の開発と細胞膜機能解析
感染症研究国際展開戦略プログラム	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	フィリピン感染症研究拠点における国際共同研究の推進
感染症研究国際展開戦略プログラム	微生物感染症学	講師	中野 竜一	フィリピン感染症研究拠点における国際共同研究の推進

(8) 公益社団法人 日本医師会 治験促進センター

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
臨床研究・治験推進研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	治験の実施に関する研究 [エブレノン]
臨床研究・治験推進研究事業	小児科学	助教	榊原 崇文	治験の実施に関する研究 [SALA・SFC]

(9) 国立研究開発法人 科学技術振興機構

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
戦略的創造研究推進事業 (社会技術研究開発)		理事長・学長	細井 裕司	空き家活用によるまちなか医療の展開とまちなみ景観の保全
研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム	第二内科学	准教授	山内 基雄	ストレスや疾病状況を把握するための連続的かつ非拘束呼吸・循環モニターの開発
研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム	麻酔科学	教授	川口 昌彦	五感を利用したEffective Medical Creation (EMC) の実践

研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム	疫学・ 予防医学	講師	佐伯 圭吾	温度・光環境とサーカディアンリズムに関するコホート研究
---	-------------	----	-------	-----------------------------

(10) 独立行政法人 国際協力機構

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
開発途上国の社会・経済開発のた めの民間技術普及促進事業	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学	教授	北原 紘	ベトナム国難聴者聴覚検査・診断器普及促進事業

(11) 公益財団法人 全国競馬・畜産振興会

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
オリンピック・パラリンピック東京 大会における食品テロ防止対策事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	オリンピック・パラリンピック東京大会における食品テロ防止対策事業

(12) 東京都

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
東京都次世代イノベーション創出 プロジェクト2020	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学	特任講師	和田 佳郎	重力感受性障害の検査・診断・治療装置の開発

(13) 名張市

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患 医療体制整備に関する調査事業	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業

(14) その他 財団法人等

団体名等	所属	職名	氏名	研究課題名
(公財) 神澤医学研究振興財団	産婦人科学	助教	吉元 千陽	MRスペクトロスコピーによるチョコレート嚢胞癌化の早期診断法
(公財) 万有生命科学振興国際交流 財団	免疫学	博士研究員	今北 菜津子	エビジェネティクスによるインフルエンザウイルス脳症への新たな治療戦略
(公財) てんかん治療研究振興財団	脳神経外科学	助教	田村 健太郎	術中皮質脳波におけるセボフルラン濃度切替・高周波振動はてんかん焦点を推定可能か
バクスアルタ(株)	輸血部	教授	松本 雅則	後天性・血栓性血小板減少性紫斑病患者のADAMTS13に対する自己抗体の解析
バクスアルタ(株)	小児科学	大学院生	矢追 博章	ずり応力が血液凝固第Ⅷ因子およびvon Willebrand 因子の産生と機能に与える影響
バクスアルタ(株)	総合医療学	助教	大野 史郎	von Willebrand 因子ADAMT13 反応軸制御に基づく急性腎障害に対する新規治療法の創出
(公財) 喫煙科学研究財団 (新規)	第一解剖	教授	西 真弓	妊娠中の受動喫煙が子供の摂食行動・嗜好性行動に及ぼす影響の分子基盤の解明
(公財) 喫煙科学研究財団 (2年目)	免疫学	教授	伊藤 利洋	炎症性腸疾患動物実験モデルでの腸内細菌のメタゲノムならびに免疫学的解析とニコチン・喫煙による変化の検討
(公財) 整形外科外科学研究助成財団	整形外科	助教	井上 和也	修復後再断裂防止のための腱板生着技術の開発
(公財) 整形外科外科学研究助成財団	整形外科	大学院生	大西 正展	殺細胞処理骨形成細胞シートの骨再生医療への応用(同種移植を目指して)
(公財) 医学教育振興財団	女性研究者 支援センター	講師	須崎 康恵	アカデミックキャリア男女間格差解消を目指した新たな継続型ジェンダー教育プログラムの構築
(公財) 循環器病研究振興財団	輸血部	助教	早川 正樹	循環器疾患における後天性フォンビレブランド症候群の診断と治療法の開発
(公財) 大阪難病研究財団	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学	医員	大山 寛毅	耳鳴動物モデルの確立と治療法の開発
(公財) 武田科学振興財団	疫学・予防医学	准教授	岡本 希	認知機能障害発生に対する歯周病原細菌感染の影響に関する研究
ノバルティスファーマ(株)	栄養管理部	教授	吉川 雅則	COPD患者における身体活動性と全身性炎症からみた治療戦略
ノバルティスファーマ(株)	第二内科学	助教	山本 佳史	Gut-lung axis からみた慢性閉塞性肺疾患(COPD)に対する新規治療戦略 —腸管蠕動運動機能からの提案—
ノバルティスファーマ(株)	眼科学	助教	西 智	着色眼内レンズがサーカディアンリズムに及ぼす影響に関する無作為化比較試験
ノバルティスファーマ(株)	眼科学	教授	緒方 奈保子	白内障手術が高齢者のQOLに及ぼす影響
ノバルティスファーマ(株)	第一内科学	教授	斎藤 能彦	脳心連関機序の解明:中枢性ナトリウムペプチド系のレニン・アンジオテンシン系を介する交感神経系抑制作用が高血圧・心不全発症に及ぼす効果の研究
ノバルティスファーマ(株)	第一内科学	助教	尾上 健児	特発性心筋根治療法を目指した新規メッセンジャー RNA 補充療法の開発
ノバルティスファーマ(株)	精神医学	助教	山室 和彦	近赤外線スペクトロスコピを用いた精神病的スペクトラム障害の鑑別
ノバルティスファーマ(株)	泌尿器科学	教授	藤本 清秀	がん細胞ミトコンドリア内における鉄利用メカニズムの解明と診断・治療への応用
ノバルティスファーマ(株)	皮膚科学	講師	宮川 史	SLEにおける核成分に対する免疫寛容破綻の機序の解明
(公財) 日本生命財団	精神医学	助教	松岡 究	認知症患者の認知・心理・生活機能障害の介護負担への影響の検討
バイエル薬品 (バイエル・ヘモフェリア アワード プログラム)	小児科学	助教	志田 泰明	The role of shear stress on biosynthesis and interaction of factor VIII and von Willebrand factor

(公財)日本腎臓財団	第一内科学	助教	松井 勝	新規バイオマーカー PIGF による腎性貧血の発症ならびに進展の予測
日本神経内分泌学会	第一解剖学	助教	堀井 謹子	外側中隔へ注射する前視床下部脳弓周囲野ウロコリン3/エンケファリン共発現ニューロンの機能解析
日本イーライリリー (株)	産学官連携推進センター	研究教授	仲川 孝彦	糖尿病性腎症における骨髄由来の糖尿病幹細胞の役割と創薬ターゲット
日本イーライリリー (株)	第三内科学	助教	鍛冶 孝祐	2型糖尿病合併肝臓に対する DNMT1 阻害剤とアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤 (ARB) の併用効果
(公財)黒住医学研究振興財団	血友病治療・病態解析学講座	助教 (寄附講座)	松本 智子	凝固波形成解析を用いた包括的凝固線溶ダイナミクス評価法の創出
グラクソ・スミスクライン (株)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	助教	山下 哲範	真珠腫性中耳炎の発生機序の解明と治療法の開発
(公財)MSD生命科学財団	第一内科学	助教	松井 勝	PIGF/sFlt-1 系による腎硬化症進展の機序解明
(公財)三井住友海上福祉財団	眼科学	助教	吉川 匡宣	緑内障が生体リズムに及ぼす影響-高齢者100名の前向きコホート研究ベースライン横断解析-
(公財)天田財団	整形外科	博士研究員	古川 彰	炭酸ガスレーザーによる医療用材料表面への機能的アパタイトの溶着加工
(公財)がん集学的治療研究財団	消化器・総合外科学	学内講師	野見 武男	切除可能両葉多発大腸癌肝転移に対する FOLFOX 療法併用イリノテカン溶出性ペースを用いた肝動脈塞栓療法 (DEB-TACE) の第1相試験
(公財)住友電工グループ社会貢献基金	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	脳血管障害の革新的治療法の開発につながるメカノシグナル機構の解明
日本イーライリリー (株)	第三内科学	講師	上嶋 昌和	非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) を伴う2型糖尿病に対する SGLT-2 阻害薬の有用性
(公財)先進医薬研究振興財団	血拴制御医学	教授	杉本 充彦	肝虚血再灌流障害における von Willebrand 因子依存性炎症反応の制御
(公財)先進医薬研究振興財団	小児科学	助教	武山 雅博	プロテインCおよびプロテインSによる凝固第Ⅳ因子の制御機構の解明および新規血友病A治療剤への応用
(公財)先進医薬研究振興財団	精神医学	助教	紀本 創兵	統合失調症における脳神経シナプスのスパイン密度の低下の制御機構の解明
(公財)MSD生命科学財団	脳神経システム医科学	助教	高橋 弘雄	脳梗塞後の神経回路再編メカニズムの解明と治療への応用

Information

平成28年度後期 奈良県立医科大学公開講座 「くらしと医学」

開催日：平成29年2月11日(土) 13:00 ~ 15:00

場所：奈良県文化会館 国際ホール

概要：本学の地域貢献の一環として、日頃の研究成果等の情報を分かりやすく提供することにより、県民の皆さんの健康の維持・増進や日々の生活に役立てていただくことを目的に開催しています。

講演者：糖尿病学講座 石井 均 教授 他

対象：県民

定員：1,000名

備考：事前申し込み不要 無料

問合せ先：総務課 総合調整係

0744-22-3051 (内線2206)



第1回 わい和いNARA 在宅サポート研究会

開催日：平成29年4月22日(土) 10:00 ~ 16:00

場所：奈良医大 大講堂

概要：テーマ「奈良から発進！ケアカとは何か？」

—生活の視点と忠恕の力—

1. 研究会設立総会

2. 会長講演

「奈良県在宅看護特別教育プログラムの構築」

3. シンポジウム 1

「ならのまちでつむぐその人らしく暮らすケア」

4. シンポジウム 2

「奈良の看護を見つめる

—奈良の看護の歴史と在宅看護の実践—」

講演者：在宅看護学 小竹 久実子 教授 他

対象：奈良県の在宅ケアをより良くしたい意思のある方すべて

定員：500名

備考：参加費無料

事前申込必要

申込先：在宅看護学

連絡先：0744-22-3051 (内線2747)

mokuda@narmed-u.ac.jp

申込締め切り：4月7日(金) (当日参加も受け付けます)

問合せ先：在宅看護学 0744-22-3051 (内線2747)

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

「未来への飛躍基金」に対し、多くの方々から募金のお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。

本基金は、本学の教育・研究・診療の更なる充実を支援するための恒久的な基金として、平成27年5月に創設いたしました。基金創設以来、平成28年12月までに累計1,274件のご寄附をいただいております。今後とも皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。なお、今号では、平成28年10月～12月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

【個人】

◆累計100万円以上1,000万円未満

飯岡 秀晃 様 伊藤 和男 様 大西 英之 様
櫻林 義雄 様 鎌田喜太郎 様 河村 健二 様
北原 紘 様 北村 弥 様 衣笠 哲雄 様
車谷 典男 様 國分 清和 様 齊藤 正幸 様
齊藤 弥穂 様 玉垣 綾子 様 中山 雅博 様
野田 太一 様 野中 秀郎 様 橋本 浩 様
平尾 佳彦 様 朴 永東 様 堀井 康弘 様
宮城 敏夫 様 山中富美男 様 山内 昌孝 様
和田 邦雄 様

掲載を希望されないご寄附者様 4名

◆累計30万円以上100万円未満

青木 誠 様 青木 保恵 様 安達 英子 様
安達 一雄 様 油谷令尹子 様 家出 清章 様
生駒 榮喜 様 石村 雅男 様 泉 哲石 様
稲垣 有佐 様 稲田 有史 様 井上 聡己 様
今西 哲人 様 今村 知明 様 上嶋 昌和 様
上田 章雄 様 上田 和孝 様 植田 充治 様
上塚 弘 様 鶴山 秀人 様 榎本 泰久 様
太田 智子 様 大前 利市 様 小川 淳司 様
小川 宗宏 様 荻田 恭也 様 奥田 壽夫 様
奥野 修三 様 奥山 節彦 様 面川 庄平 様
賀代 篤二 様 春日 宏友 様 角能 輝之 様
神谷 達 様 亀井 滋 様 亀田 陽一 様
川口 昌彦 様 川手 健次 様 北 一彦 様
北野 浩行 様 吉川 公彦 様 衣川 一彦 様
木村 弘 様 桐田 忠昭 様 楠元 孝幸 様
葛本 直哉 様 國松 幹和 様 熊井 司 様
國分麻依子 様 國分 律子 様 古西 満 様
小林 経宏 様 小林 浩 様 小味淵智雄 様
小向井英記 様 齊藤 守重 様 斎藤 能彦 様
阪本 義晴 様 嶋 緑倫 様 島屋 正孝 様
志水 敏夫 様 下川 充 様 下里 直行 様
下村 隆英 様 下村 英明 様 庄 雅之 様
杉江 和馬 様 杉江 美穂 様 杉山 信子 様
鈴木 秀夫 様 酢谷 俊夫 様 諏訪 好信 様
関 寿夫 様 曾根 勝 様 高倉 義典 様
高崎 真一 様 高瀬 俊夫 様 竹川 隆 様
竹中 英昭 様 田中 邦昭 様 田中 成典 様
田中 利洋 様 田中 宣道 様 玉置 伸二 様
塚田 周平 様 土井 涉 様 徳永 英守 様
鳥本 一匡 様 内藤 宏昌 様 長雄 正博 様
中川 一郎 様 仲川 喜之 様 中島 隆介 様
中谷 晃 様 中谷 敏也 様 中西 善久 様
永野 龍生 様 中村 光利 様 南淵 明宏 様
南淵 芳 様 成尾 一彦 様 二階堂雄次 様
西尾 健治 様 野上 恵嗣 様 萩野平八郎 様
橋本 多加 様 橋本 俊雄 様 橋本 平嗣 様
長谷川正俊 様 畠山 金太 様 馬場谷勝廣 様
林 需 様 東口 隆一 様 久永 學 様
平井 勝治 様 平井都始子 様 廣田さち子 様
廣橋 里奈 様 福岡 篤彦 様 福山 隆之 様
藤田 正之 様 藤本 清秀 様 藤本 眞一 様
朴 永銖 様 星田 徹 様 堀内 俊孝 様

本田 伸行 様 本田 泰啓 様 松本 寛史 様
丸山 直樹 様 三木 陽子 様 三橋 二良 様
美登路 昭 様 村上 華奈 様 村田 省吾 様
森久保 寛 様 森田 吉英 様 森村 昌史 様
八木 正躬 様 柳生 善彦 様 家根 旦有 様
山内 基雄 様 山科 秀規 様 山田 修平 様
山中 敏彰 様 山本 智生 様 山本 泰弘 様
山本 百合 様 横山 和弘 様 吉岡 章 様
吉岡智代子 様 吉川 雅則 様 吉治 仁志 様
吉田 昭三 様 吉田 精司 様 吉村 均 様
米田 龍生 様 米山 恵嗣 様 和田 隆昭 様
和田 誠 様

掲載を希望されないご寄附者様 33名

◆累計10万円以上30万円未満

浅田 秀夫 様 五十嵐稔子 様 池田 直也 様
伊藤 妙子 様 井上 毅 様 今井裕一郎 様
岩崎 洋明 様 上平 悦子 様 植村 信子 様
梅垣 嘉子 様 大川 晋一 様 岡田 安司 様
奥井 桂三 様 奥田 孝雄 様 奥地 一夫 様
梶井 節子 様 粕田 承吾 様 鴨川 郷 様
北口 順子 様 北村 久子 様 北村 里奈 様
城戸 顕 様 貴宝院邦彦 様 切石礼次郎 様
熊澤 博文 様 小林 恭代 様 酒井 宏水 様
榊 徳子 様 坂本 光章 様 櫻井 隆久 様
佐藤 雅司 様 堀谷 直久 様 清水 啓敏 様
下川原立雄 様 植森 志穂 様 住田 淳子 様
高塚 英雄 様 竹澤 祐一 様 竹田 幸司 様
田中 幸博 様 豊田 哲郎 様 長尾喜八郎 様
中島 充 様 橋本 明美 様 橋本 英雄 様
濱田 薫 様 細川 洋治 様 松田 良介 様
間野ともえ 様 丸中 州 様 三崎 三郎 様
峯 克彰 様 村嶋 徳昭 様 森川 東 様
矢島 弘嗣 様 山下 昌宏 様 湯川 英一 様
和田 義己 様 和田 義史 様

掲載を希望されないご寄附者様 48名

◆累計10万円未満

石原 卓 様 井上 信明 様 上原 正臣 様
植松 聡 様 内原 悠斗 様 奥田 哲教 様
尾本 幸治 様 金澤 成典 様 鴨川 秀子 様
河野 悌司 様 木口 真次 様 北村 哲郎 様
桐山 敬生 様 後藤 大輔 様 小西 康司 様
近藤 雅彦 様 佐藤 林平 様 竹内 敏美 様
内藤希実子 様 西村 拓也 様 速水 直生 様
春田 祥治 様 東口 等 様 福住 房子 様
堀 謙輔 様 増田 佳亮 様 森田 成紀 様
八木英次郎 様 保田健太郎 様 矢野富士夫 様
山尾 洋成 様 山田 修一 様 吉峰 正 様
輪島 大介 様

掲載を希望されないご寄附者様 50名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

荒木 正史 様 石川純一郎 様 石田 洋生 様
石田由佳子 様 伊藤 利洋 様 井上 和也 様
今中 康文 様 岩崎 壽美 様 上田 順宏 様

江川 琢也 様 衛藤 幸男 様 太田 一郎 様
大庭 直樹 様 大村 素子 様 大山 信雄 様
岡嶋 克則 様 岡島純一郎 様 岡田 定規 様
緒方奈保子 様 岡村 圭祐 様 岡山 裕行 様
桶田 正成 様 尾崎 由美 様 笠原 敬 様
金子 佳照 様 川上 正良 様 川田 耕平 様
北田 力 様 北村 修一 様 北山勘解由 様
木下 國浩 様 久下 隆 様 熊田 幸江 様
黒川紳一郎 様 黒川 紘章 様 桑原 理充 様
小嵐 秀之 様 小屋 貴司 様 相良 洋三 様
佐藤 健司 様 潮見 満雄 様 四方 秀樹 様
清水 隆昌 様 白江 伸宏 様 杉原 誠一 様
杉山 友悦 様 鈴木 順三 様 角田 隆博 様
瀬戸 靖史 様 高濱 潤子 様 高濱 誠 様
辰巳 英章 様 田中 寿典 様 田中由紀子 様
田中 祥貴 様 土田 容子 様 藤間 保昌 様
土肥 和弘 様 友田 恒一 様 内藤 喬皓 様
中川扶美子 様 中込 将弘 様 中島 滋郎 様
仲西 康顕 様 中野 利夫 様 中林 仁美 様
中原 祥文 様 中村 武彦 様 西岡 秀 様
畑口富美男 様 昌中 利英 様 林 洋 様
東野 正 様 平石 達郎 様 福山由美子 様
藤井 謙裕 様 藤村 由香 様 古家 仁 様
松尾 幸子 様 松尾 祥弘 様 松島 明彦 様
松田 京美 様 三上 貞昭 様 宮里 馨 様
宗本 充 様 村田 茂 様 森岡 道朝 様
森川 将行 様 森田 英之 様 守屋 昭 様
矢野 寿一 様 藪本 明広 様 山内 哲司 様
山下 裕嗣 様 山田 薫 様 柚原佳代子 様
横田 雅子 様 吉川真由美 様

【法人・企業】

◆累計1,000万円以上

医療法人 社団 田北会 様

◆累計100万円以上1,000万円未満

医療法人 優心会 吉江医院 様

◆累計50万円以上100万円未満

医療法人 渡邊内外科クリニック 様

医療法人 桜翔会 中社医院 様

◆累計10万円以上50万円未満

医療法人 新生会 総合病院 高の原中央病院 様

医療法人 脳神経外科 日本橋病院 様

医療法人 長尾会 ねや川サナトリウム 様

社会医療法人 松本快生会 様

◆累計10万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 1法人

(五十音順)

平成28年9月以前のご芳名については、本学「未来への飛躍基金」HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>) に掲載しております。

メディア掲載情報をお寄せください ~学報紙面で紹介します~

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
坪井 昭夫 教授 (生命システム医科学分野 脳神経システム医科学)	2016年6月8日 テレビ朝日「中居正広のミになる図書館」 2016年11月20日 フジテレビ「フルタチさん」	バクチャーの香りに関し、嗅覚分野の専門家としてコメント
今村 知明 教授 (公衆衛生学)	メディファックス(株式会社じほう) 2016年9月26日(月)16年度実施の7調査、調査概要案を了承 介護報酬改定検証委員会	「介護報酬改定検証委員会」は、7つの介護報酬改定効果検証・調査研究事業の調査概要案を大筋で了承。今村が調査検討組織の委員長を務める。
	メディファックス(株式会社じほう) 2016年10月11日(火) 5疾病の議論本格化へ、「疾病構造の変化を反映」医療計画検討会	厚生労働省「医療計画の見直し等に関する検討会」の構成員として、今村は「地域医療構想の議論における最大の問題点は、急性期の患者が減り慢性期の患者が増えること。そこについて、計画の中でどう対応していくかが重要」と指摘。高齢者の症状が急激に悪化した場合などの対応が重要な課題との認識を示した。
	第192回国会(臨時会)TPP特別委員会 参考人招致 衆議院 TVインターネット審議中継 ビデオライブラリ 開会日:2016年10月25日(火) 会議名:TPP特別委員会(1時間36分) 案件:・環太平洋パートナーシップ協定の締結について承認を求めるの件(190国会案8) ・環太平洋パートナーシップ協定の締結に伴う関係法律の整備に関する法律案(190国会案47) 説明・質疑者等:塩谷立(TPP特別委員長) 今村知明(参考人) 他 2016年10月25日 NHKニュースウェブ、日本経済新聞 電子版等 2016年10月28日 朝日新聞 朝刊4面 "TPP衆院通過 来月1日軸 与党、野党意向に配慮"衆院TPP特別委員会に出席した参考人の一覧表に氏名・所属の紹介あり	衆院の環太平洋連携協定(TPP)特別委員会は25日、TPP承認案と関連法案について参考人質疑を行った。輸入食品の遺伝子組み換えや残留農薬などに対する消費者の根強い懸念の声を踏まえ、参考人として出席した有識者からは食の安全に関わる体制強化や予算の拡充などを求める意見が出た。旧厚生省(現厚生労働省)出身で奈良県立医科大学教授の今村知明氏は、「食の安全に関する人材や研究体制が全然足りない」と指摘。政府に予算拡充を含めた対応の強化を要望した。
浅田 秀夫 教授 (皮膚科学)	2016年12月1日 NHK・Eテレ「きょうの健康」 2017年1月13日 朝日新聞 朝刊	ヘルペス・帯状疱疹についてコメント

編集後記

昨年末に、本学で防災訓練が行われました。(P 20 参照)今回は、本学の看護学
科生が模擬患者役となり、病棟から避難誘導をする訓練も行われました。その他に
も、起震車による震度6の地震体験等も行われました。実際に震度6の地震を体験
しましたが、揺れている間は到底立ち上がる事などはできませんでした。今後は、
通信訓練や参集訓練も行う予定です。実際に地震が発生した際には、これらの訓練
での経験を活かし、減災に努めたいと思います。

- 大林 千穂 (病理診断学)
- 藤本 雅文 (物理学)
- 京谷 陽司 (薬理学)
- 小川 浩平 (皮膚科)
- 乾 つぶら (母性看護学)
- 西 幸江 (看護部)
- 森田 英之 (総務課)
- 阪田 聖基 (総務課)
- 勝本英一郎 (研究推進課)
- 日浦 嗣子 (教育支援課)
- 廣田 雅彦 (病院管理課)
- (○印は編集委員長)

学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。
(<http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)